

区別ワークショップ 参考データ集

[目次]

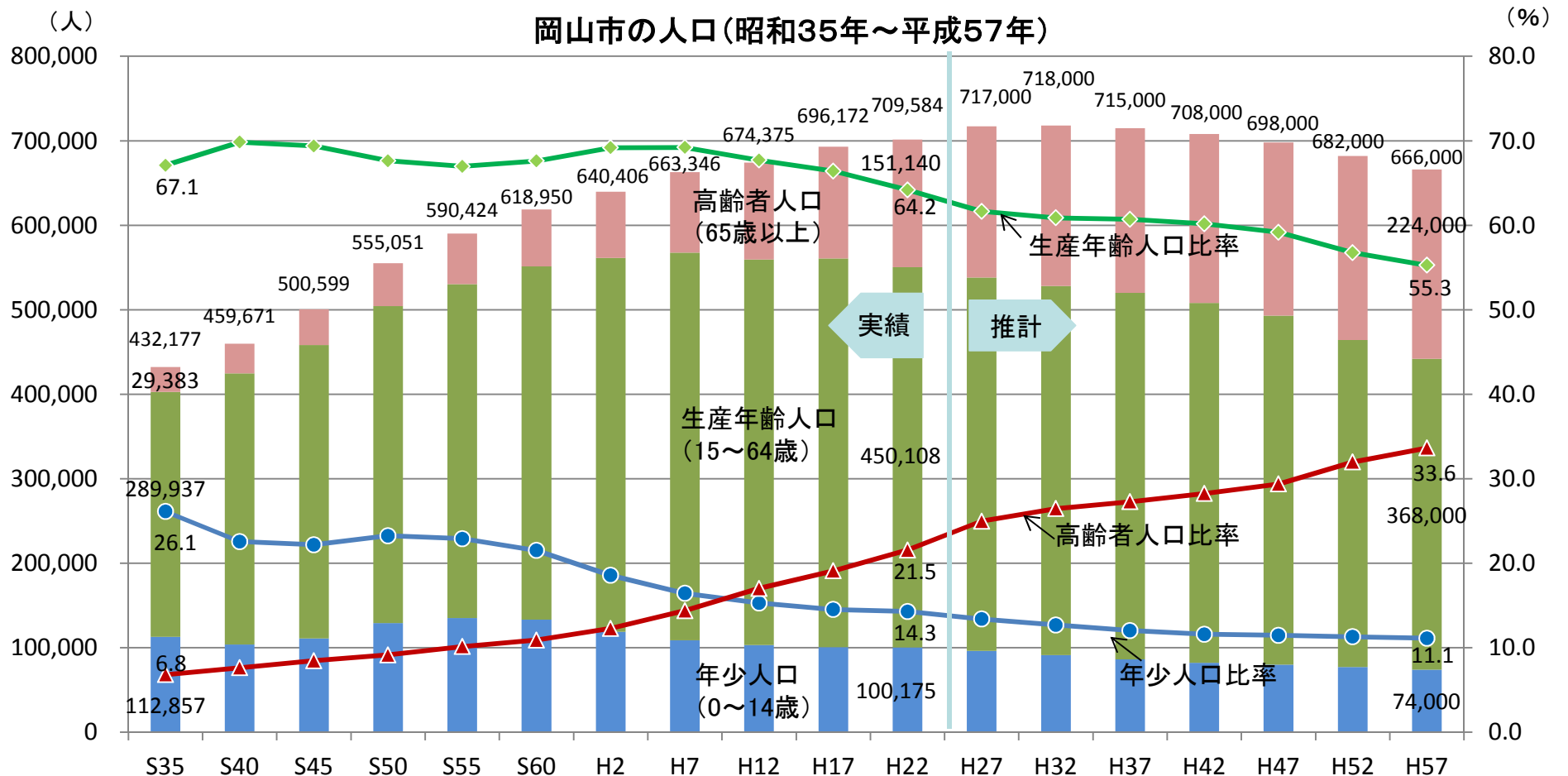
○人口	…P 1
○高齢化	…P 6
○医療、介護	…P 9
○子ども	…P10
○昼夜間人口	…P12
○都市、交通	…P14
○経済、産業	…P21
○文化財	…P26
○地域活動	…P27
○外国人	…P29
○安全・安心	…P30
○市域の変遷	…P34

岡山市政策局総合計画課

岡山市の人口推移と将来推計人口

○岡山市は、長期構想の期間中に人口減少社会に突入する見通し。30年後の平成57年には平成7年と同水準の666,000人(6.1%減少)となる。その間、少子・高齢化は確実に進行し、年齢構造は過去とは大きく異なるものとなる。

- ・年少人口:平成22年 100,175人(14.3%) → 平成57年 74,000人(11.1%)・・・3.2ポイント低下
- ・生産年齢人口:平成22年 450,108人(64.2%) → 平成57年 368,000人(55.3%)・・・8.9ポイント低下
- ・高齢者人口:平成22年 151,140人(21.5%) → 平成57年 224,000人(33.6%)・・・12.1ポイント上昇



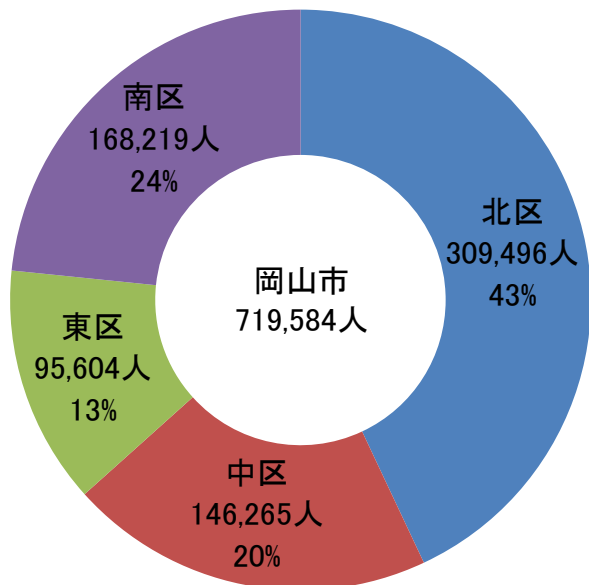
※国勢調査の総数には年齢「不詳」を含む。ただし、構成比は年齢「不詳」を除いて算出。

資料: S35～H22は総務省国勢調査、H27～57は岡山市推計

区別 人口と人口密度

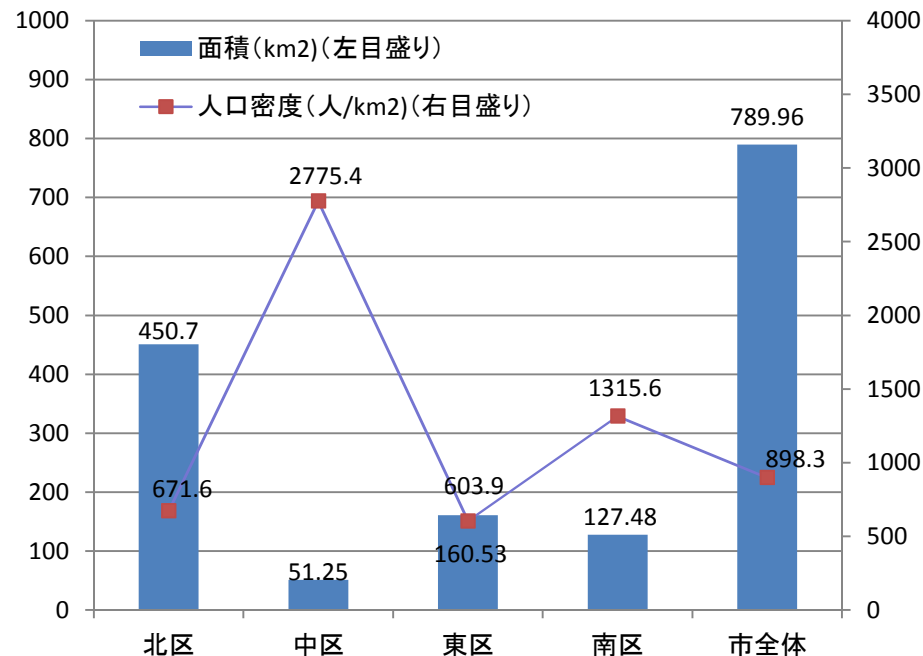
○平成27年国勢調査の速報値によると、岡山市の人口は719,584人であり、平成22年から1万人(1.4%)増加。
 ○人口増加率は中区の2.8%が最も高く、北区の2.3%が続く。東区は-1.4%であり、平成22年からすでに人口減少に突入している。南区は微増。
 ○人口密度は中区が突出している(2,775.4人/km²)。

各区の人口

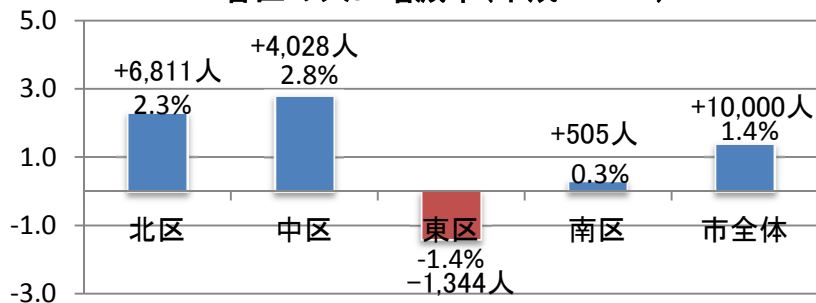


資料:「平成27年国勢調査速報値」

各区の面積と人口密度



各区の人口増減率(平成22→27)



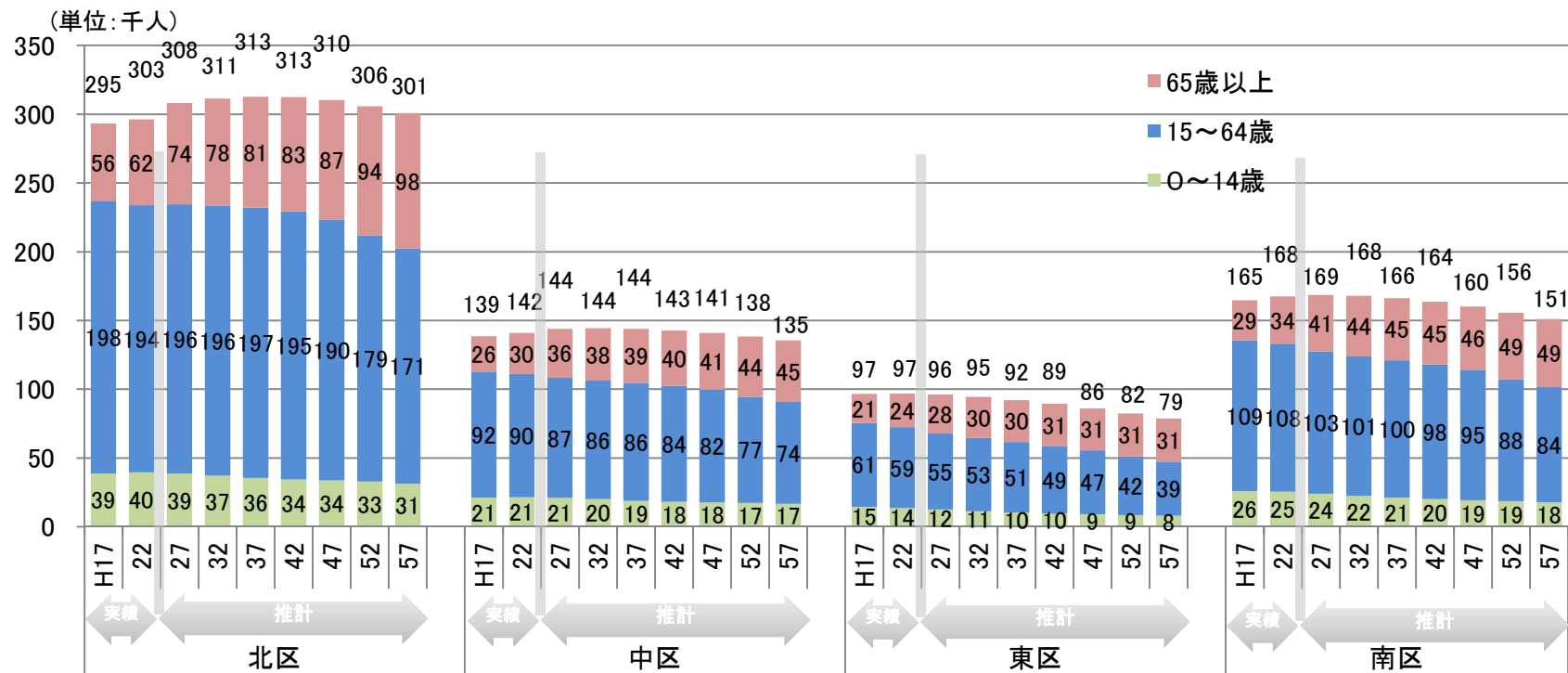
資料:「平成22年国勢調査」、及び「平成27年国勢調査速報値」

	北区	中区	東区	南区	市全体
面積(km ²)	450.7	51.25	160.53	127.48	789.96
人口密度(人/km ²)	671.6	2775.4	603.9	1315.6	898.3

資料:「平成22年国勢調査」、及び「平成27年国勢調査速報値」

区別 将来推計人口

- 北区は平成37年をピークに、緩やかな人口減少へ。
- 中区は平成32年をピークに、緩やかな人口減少へ。
- 東区は平成22年をピークに、既に人口減少社会に突入している。
- 南区は平成27年をピークに、緩やかな減少へ。



注:平成17年~22年の総人口は年齢不詳を含むので、年齢3区分別人口の計と一致しない。
 資料:国勢調査、H26独自推計(※H27国勢調査速報値と異なることに注意)

地域別 人口増減

○すでに人口減少局面に突入している郊外部、中山間地域をはじめ、市内の多くの地域で人口減少が進む見通し。

図 これまでの人口増減(S60⇒H22)

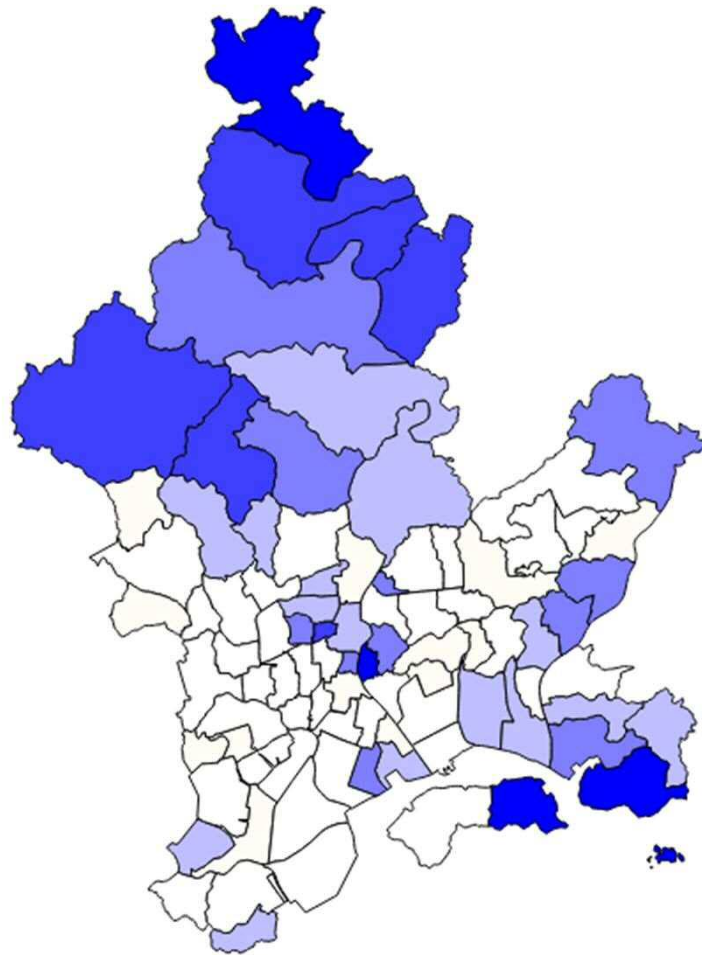
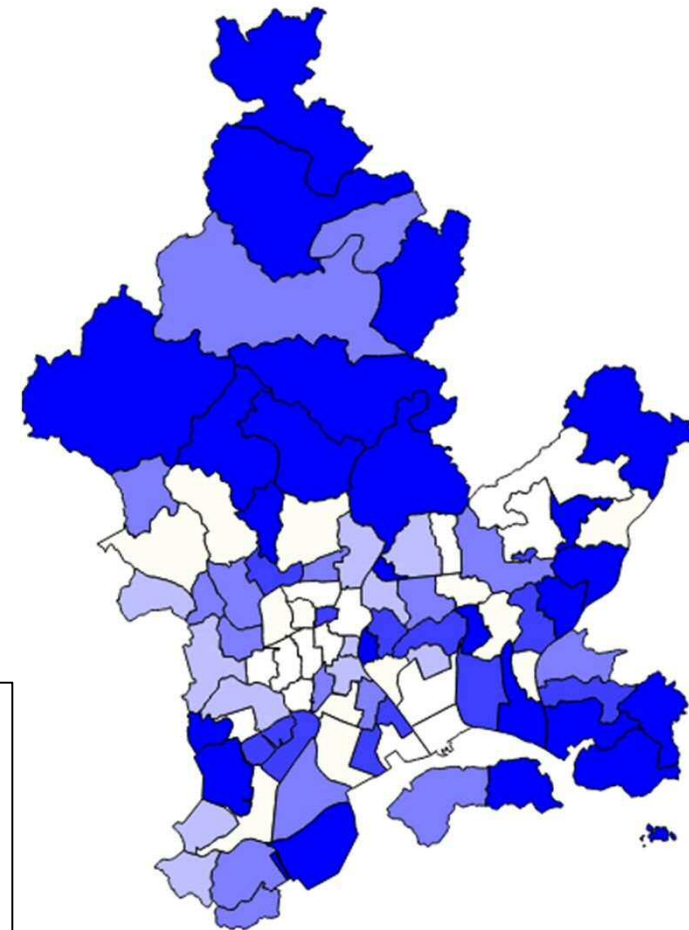


図 これからの人口増減(H22⇒H52)



<凡例>
人口増減

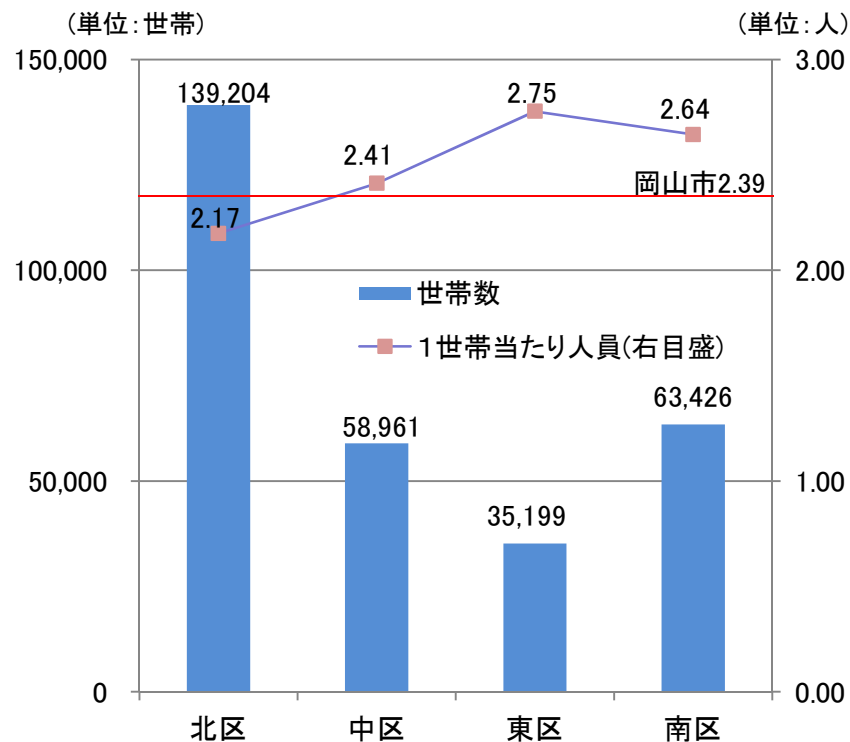
-  30%以上減少
-  20～30%減少
-  10～20%減少
-  0～10%減少
-  横ばい・増加

資料：H22国勢調査、岡山市推計(H26)

区別 世帯数及び家族類型別世帯割合

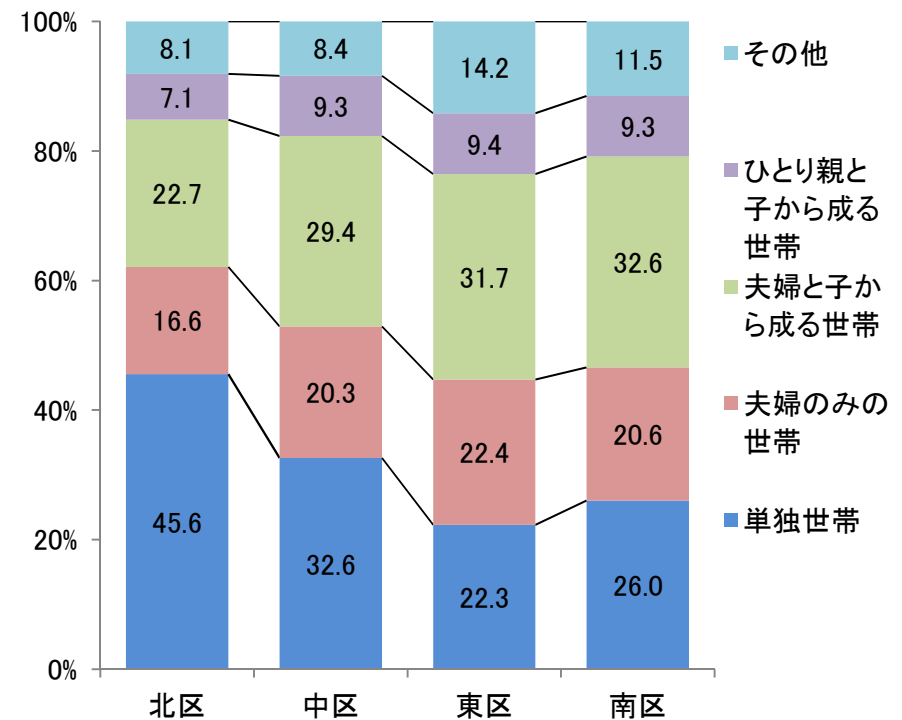
- 世帯数は、北区が最も多く、南区、中区と続き、東区が最も少ない。
- 1世帯当たり人員は、東区が最も多く、南区、中区、北区と続く。北区のみが岡山市全体を下回っている。
- 家族類型別世帯割合をみると、北区は単独世帯が半数近くを占め、夫婦と子から成る世帯は4区の中で最少。中区は北区と同様に単独世帯が最多であり、次いで、夫婦と子から成る世帯が続く。東区と南区は夫婦と子から成る世帯が最多。

区別の世帯数、一世帯当たり人員



資料: 総務省「H22国勢調査」

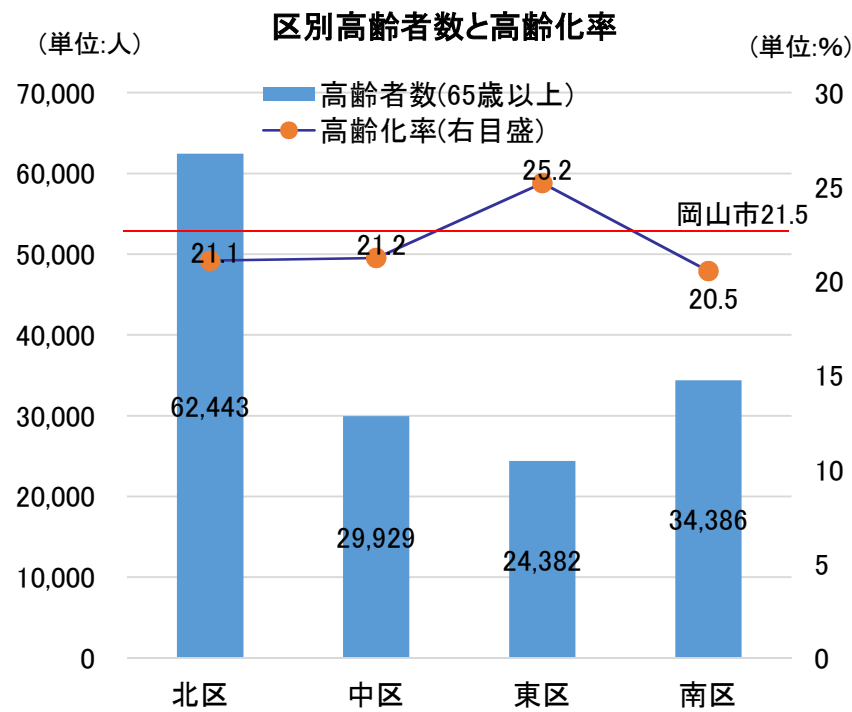
区別の家族類型別世帯割合



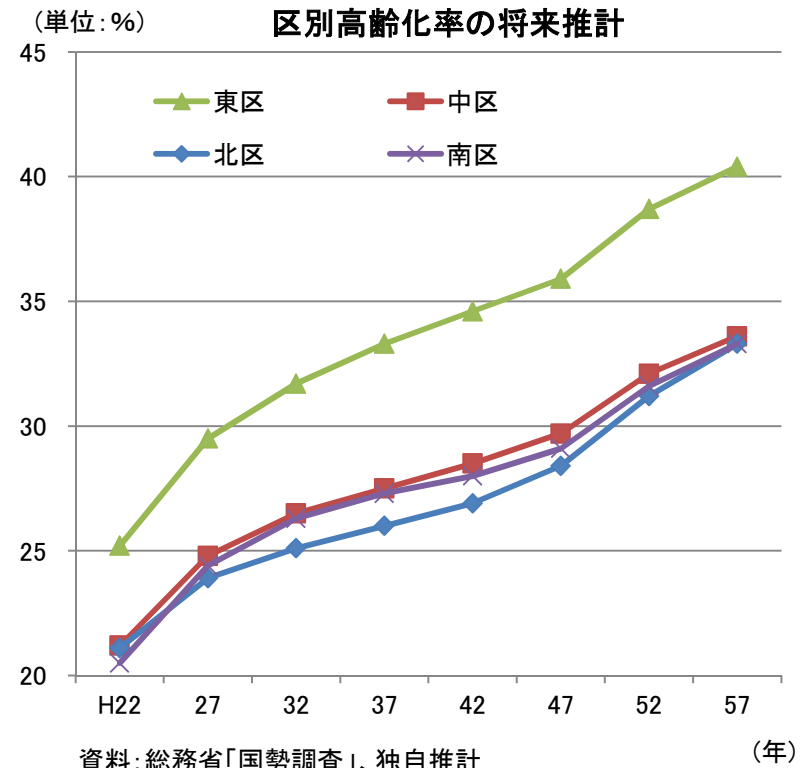
資料: 総務省「H22国勢調査」

区別 高齢者数と高齢化率

○特に東区の高齢化率(25.2%)が高く、東区は他の区よりも早く高齢化が進行する見込み。



資料:総務省「国勢調査(H22)」



資料:総務省「国勢調査」、独自推計

(年)

地域別 高齢化率

○高齢化は全市的に進んでいくが、特に中山間地域、郊外部でさらなる高齢化率が進行する見通し。

図 現在の高齢化率(H22)

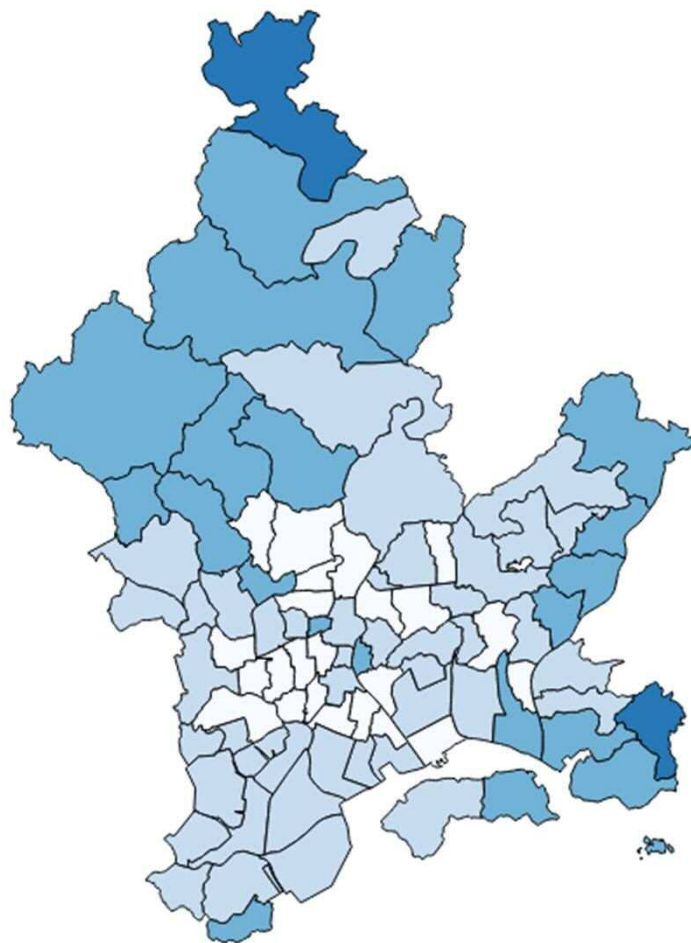
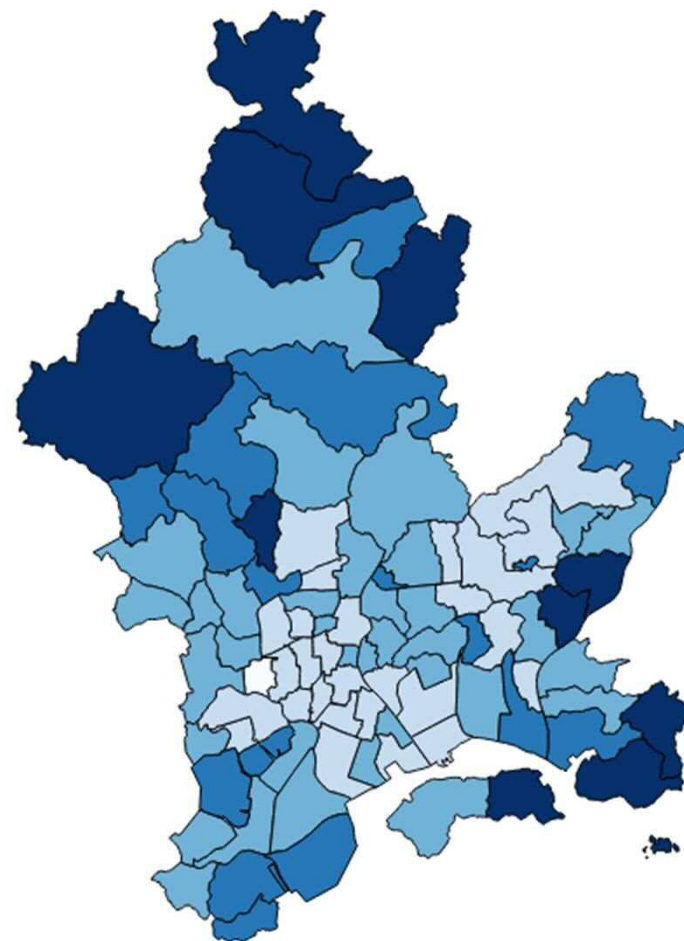


図 30年後の高齢化率(H52)

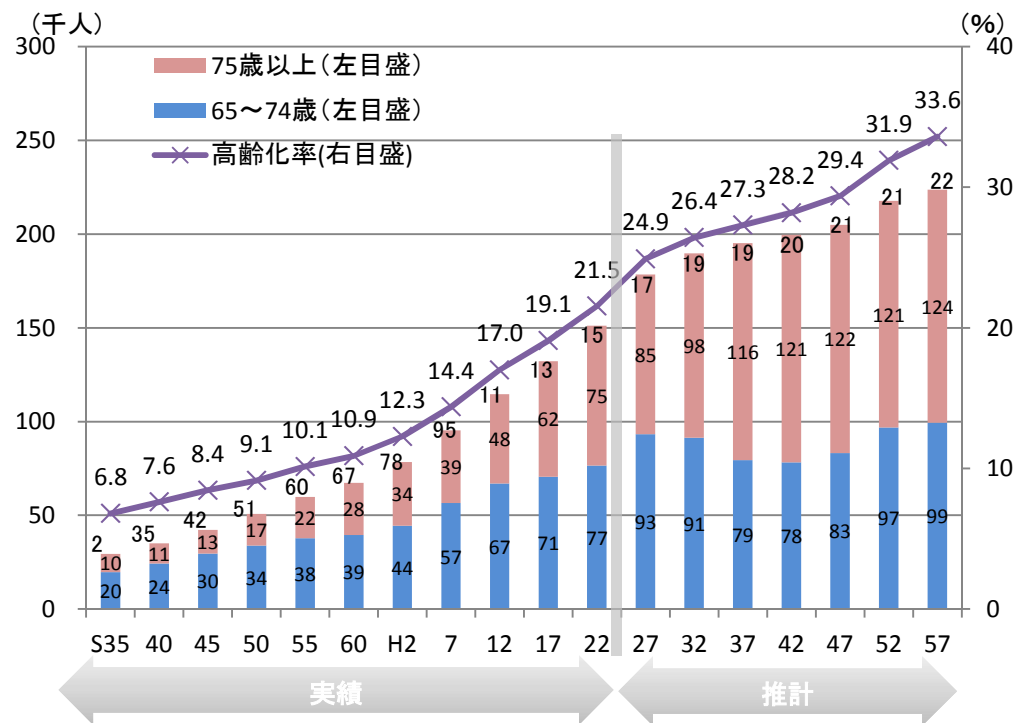


資料：H22国勢調査、岡山市推計(H26)

岡山市 高齢化と健康寿命

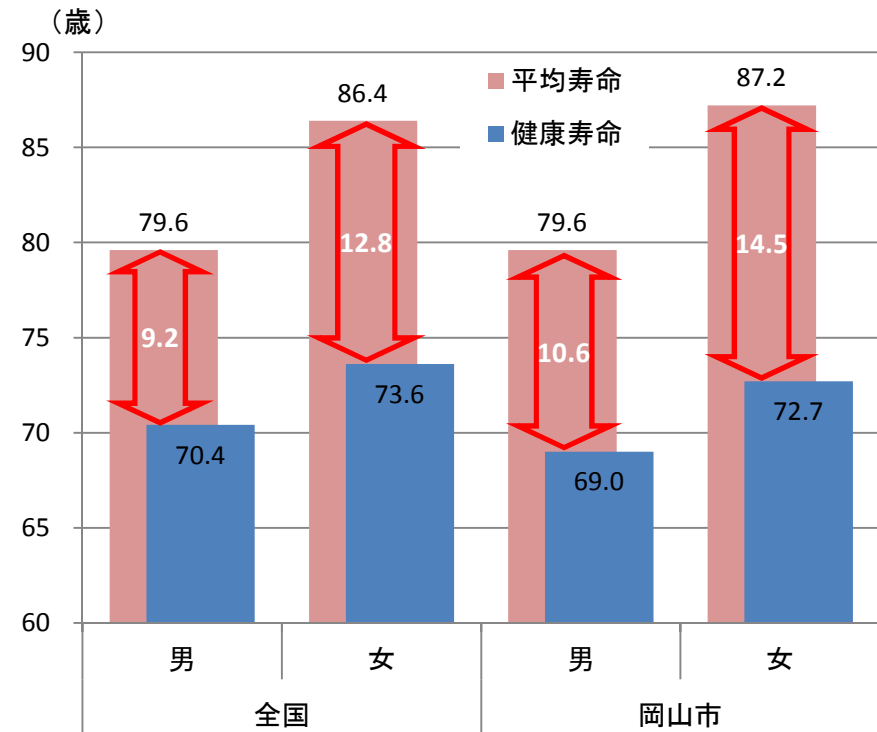
- 平成37年(2025年)に、団塊世代が75歳以上の後期高齢者となり、約4万1千人増加する。
- 高齢化率は全国平均より緩やかに推移する見込みである(H52年:岡山市31.9%、全国36.1%)。
- 岡山市の平均寿命は、男性(79.6歳)は全国と同水準であり、女性の平均寿命(87.2歳)は、全国よりも上回っている。
- 岡山市の男性の健康寿命(69.0歳)と女性の健康寿命(72.7歳)は全国よりも短く、平均寿命との差が大きい。

岡山市高齢者、高齢化率の推移



注:四捨五入のため、内訳と合計は一致しないことがある。
資料:総務省「国勢調査」、岡山市推計

岡山市の平均寿命と健康寿命



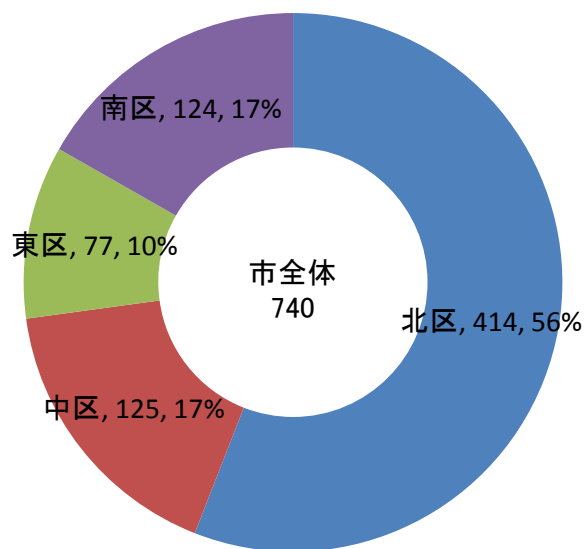
資料:厚生労働省「市区町村別生命表(H22)」、厚生労働省研究班「健康寿命の指標化に関する研究(平成25年度分担研究報告書)」

※健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のこと(WHO)

区別 医療、介護

- 病院、診療所の数は、北区が最も多く、全体の約56%。
- 北区は要介護認定率が23.3%で最も高い。

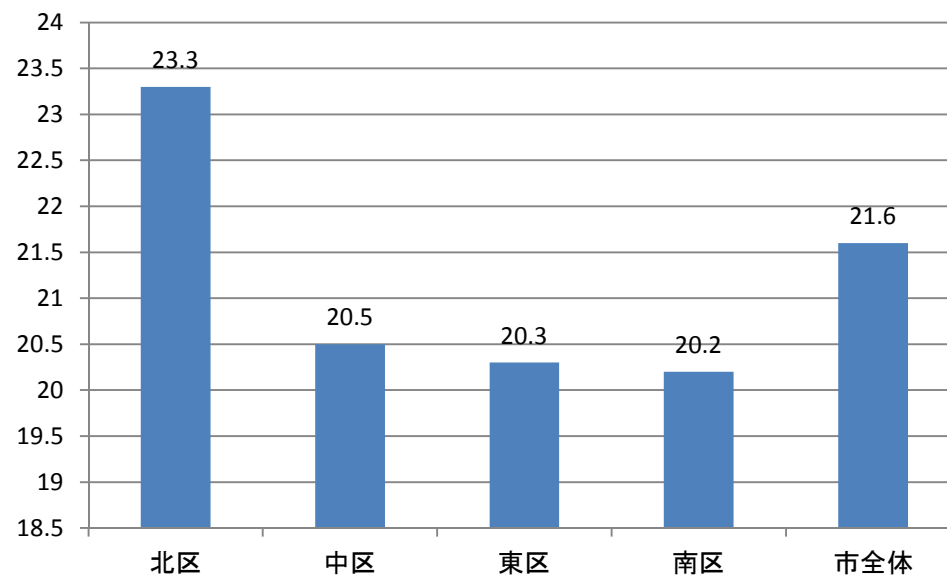
病院・診療所数



資料:「H25.10月、医療施設調査」

要介護認定率

(単位: %)

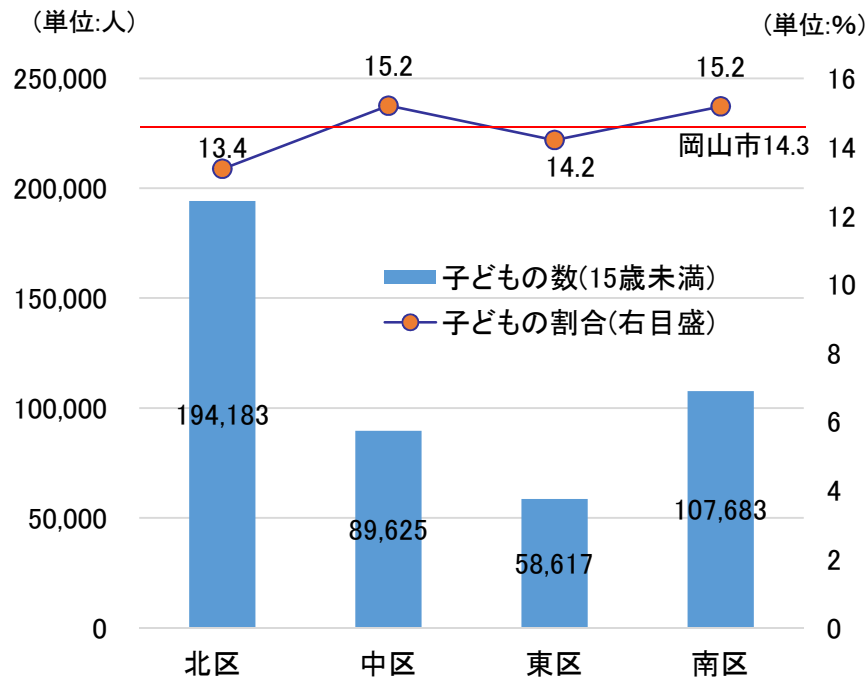


資料:「H26.9月末、岡山市調べ」

区別 子どもの数と割合

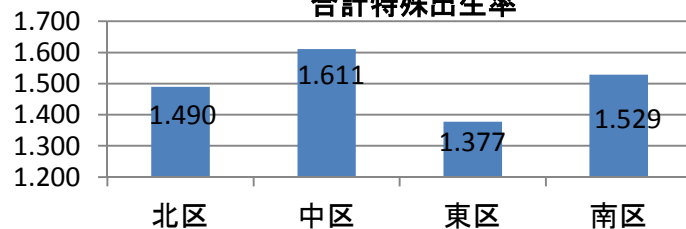
○子どもの数の割合は、中区、南区が高く(15.2%)、北区が最も低い(13.4%)。東区は岡山市平均とほぼ同じ(14.2%)。

区別の子ども数と割合

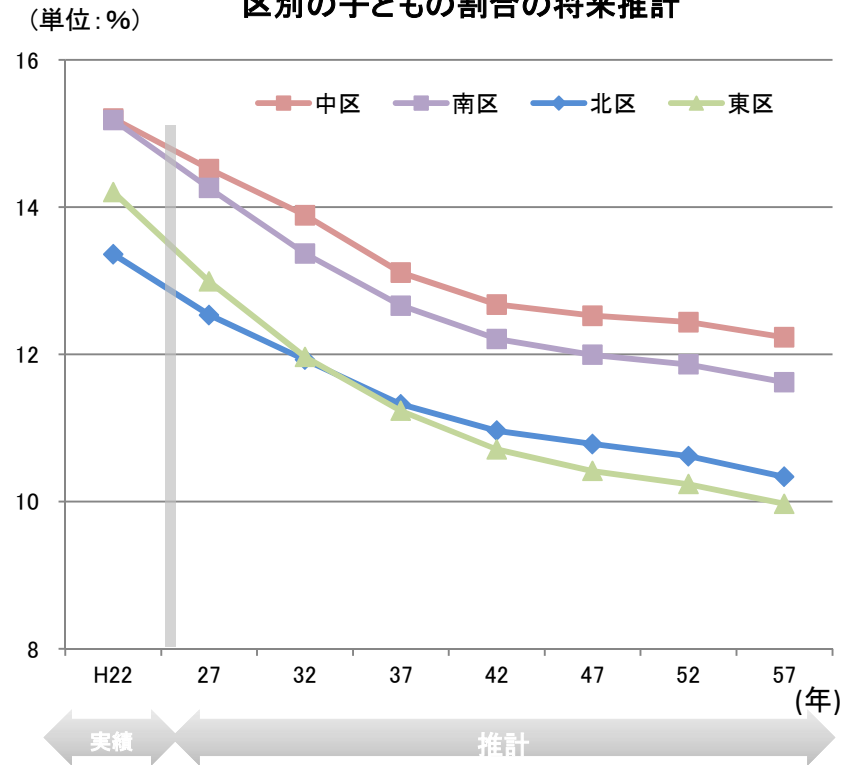


資料:総務省「国勢調査(H22)」

合計特殊出生率



区別の子ども数の割合の将来推計

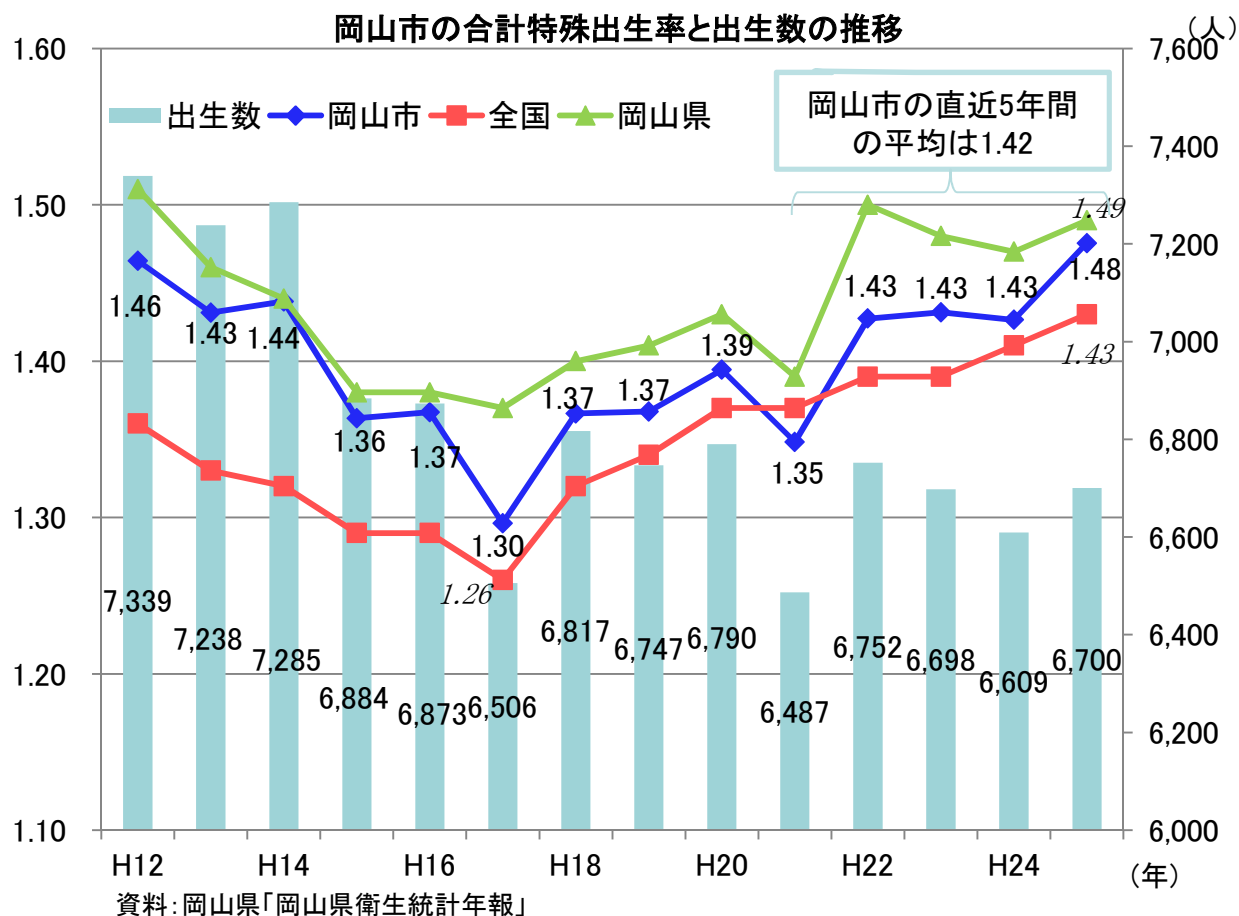


資料:「岡山市保健衛生年報(H27)」
(H25年数値)岡山市の合計特殊出生率と算出方法が異なることに注意

合計特殊出生率及び出生数の状況(国、県、市)



○合計特殊出生率は、岡山県を若干下回るものの、全国より概ね高い水準で推移。最近5年間の平均値は1.42。
 ○出生数は、平成12年～17年にかけて減少した後、平成21年を除けば概ね6,600～6,800人前後で推移。



指定都市の合計特殊出生率 上位5位

順位	指定都市	値
1	浜松市	1.57
2	北九州市	1.50
3	熊本市	1.49
4	広島市	1.46
5	岡山市	1.44
政令市平均		1.33

(参考)都道府県の合計特殊出生率 上位10位

順位	都道府県	値
1	沖縄県	1.94
2	宮崎県	1.72
3	島根県	1.65
3	熊本県	1.65
5	長崎県	1.64
6	鹿児島県	1.63
7	鳥取県	1.62
8	福井県	1.60
9	香川県	1.59
9	佐賀県	1.59
全国平均		1.43

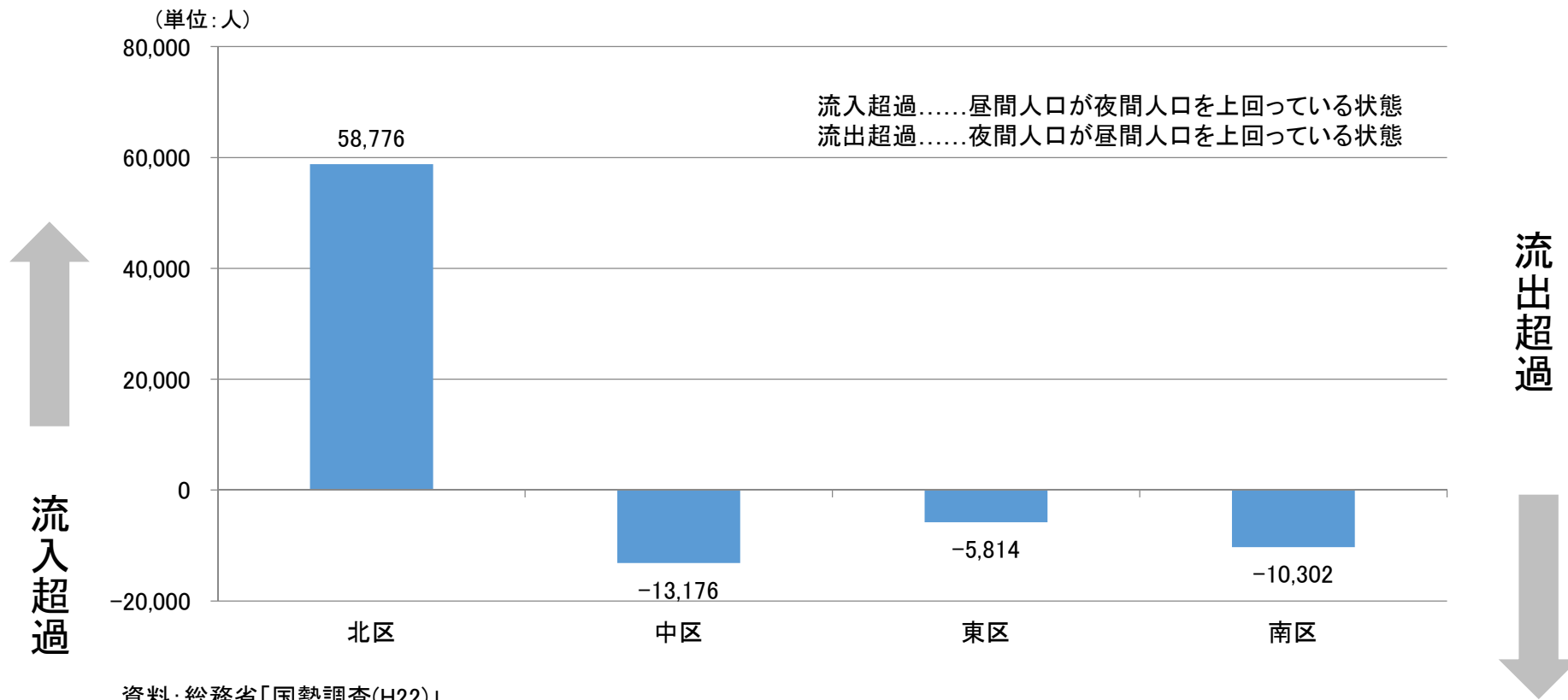
注: 都道府県は平成25年、政令指定都市は平成20～24年の数字

資料: 厚生労働省「平成25年人口動態報告」「人口動態保健所・市区町村別統計」

区別 昼夜間人口

- 北区だけが昼間人口が夜間人口を上回る流入超過。
- 流出超過の最多は中区。

区別昼夜間人口の差



区別 昼夜間人口

- 北区は県内のすべての自治体から流入超過。
- 中区と東区は、赤磐市が最大の流入超過先。
- 中区、東区、南区は、北区が最大の流出超過先。
- 東区は、北区、中区、南区のいずれにも流出超過。

区別昼夜間人口の差の内訳

(単位:人)

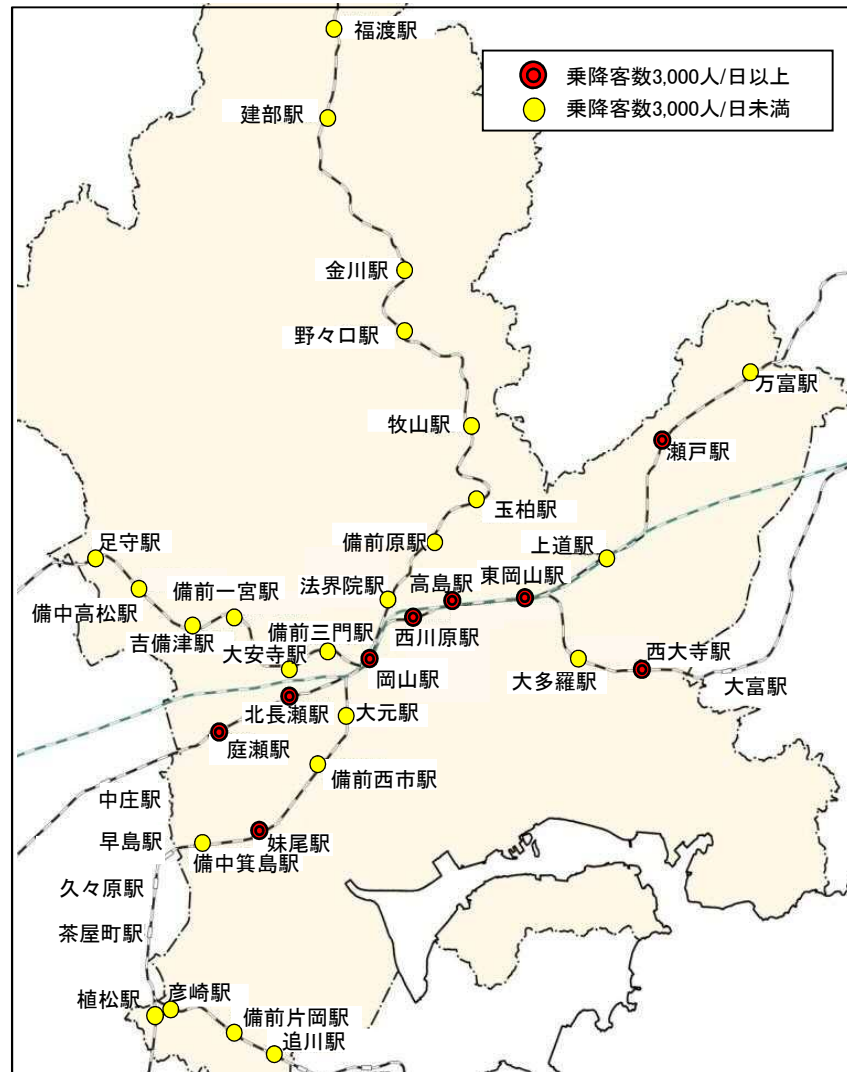
	北区		中区		東区		南区	
流入超過	中区	14,114	赤磐市	596	赤磐市	1,133	中区	653
	倉敷市	10,670	東区	491	和気町	159	東区	564
	南区	10,607	倉敷市	213	早島町	20	赤磐市	415
	東区	5,037	総社市	197	美咲町	7	総社市	229
	赤磐市	3,502	瀬戸内市	158	里庄町	4	瀬戸内市	196
	総社市	2,102	玉野市	152	矢掛町	4	浅口市	64
	玉野市	1,975	浅口市	57	井原市	2	早島町	37
	瀬戸内市	1,778	和気町	48	総社市	1	和気町	30
	備前市	965	笠岡市	37	浅口市	1	美咲町	15
	浅口市	878	早島町	26	鏡野町	1	矢掛町	14
					西粟倉村	1		
	流出超過			北区	-14,114	北区	-5,037	北区
			南区	-653	南区	-564	倉敷市	-991
			備前市	-184	中区	-491	玉野市	-368
			吉備中央町	-49	備前市	-312	高梁市	-21
			高梁市	-43	倉敷市	-217	津山市	-5

資料:総務省「国勢調査(H22)」

岡山市のJR駅別利用者数

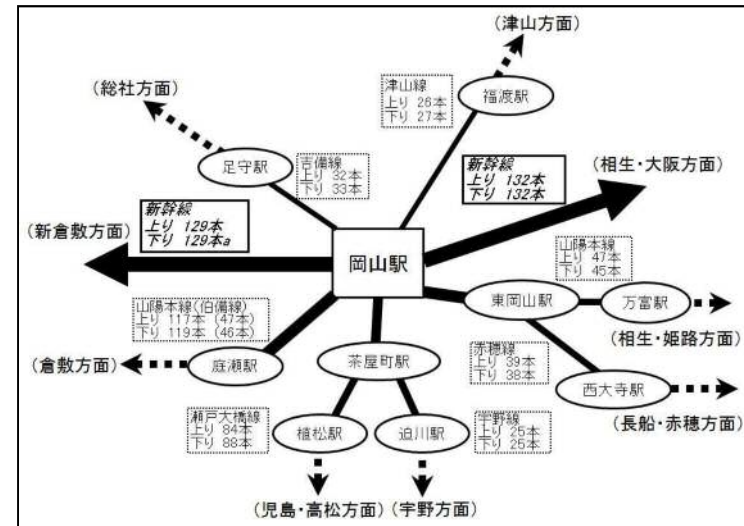
○岡山駅を中心に山陽新幹線をはじめ在来線7線が運行しており、乗降客数は岡山駅が12.5万人/日で突出。
○岡山市内の乗降客数3,000人/日以上のは、9駅。

JR駅位置図



資料: JR提供

鉄道網と各路線の運航頻度(平成26年3月時点)

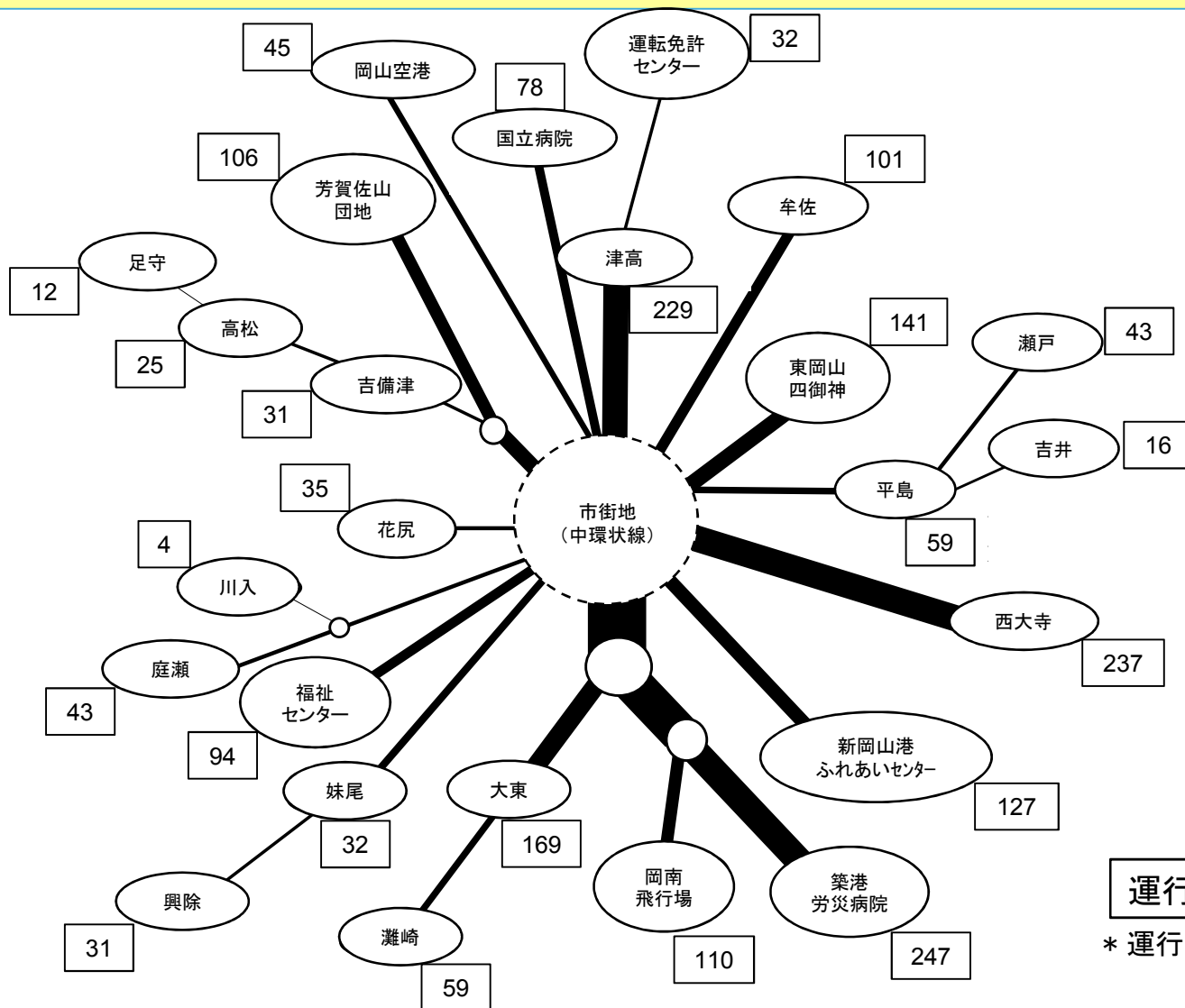


各駅平均乗降客数(人/日)(平成25年度)

順位	駅名	計	順位	駅名	計
1	岡山	124,555	17	金川	1,734
2	庭瀬	7,766	18	備前一宮	1,683
3	北長瀬	6,822	19	万富	1,344
4	東岡山	6,752	20	足守	1,153
5	西大寺	6,736	21	吉備津	1,120
6	妹尾	6,018	22	彦崎	589
7	西川原	5,939	23	大安寺	573
8	高島	5,880	24	迫川	508
9	瀬戸	5,143	25	備前片岡	493
10	大元	2,850	26	福渡	479
11	上道	2,823	27	建部	420
12	大多羅	2,816	28	植松	290
13	備中高松	2,654	29	備中箕島	273
14	備前西市	2,534	30	野々口	223
15	法界院	2,178	31	玉柏	179
16	備前三門	1,928	32	備前原	172
			33	牧山	84

岡山市内の主な路線バスの方面別運行本数

○岡山市内の主な路線バスの方面別運行本数をみると、「西大寺」、「築港、労災病院」、「津高」方面が特に多く、いずれも200本以上。



運行本数 (H26)

* 運行本数は、往路・復路合計

岡山市内の主な路線バスの方面別運行本数 (平日)

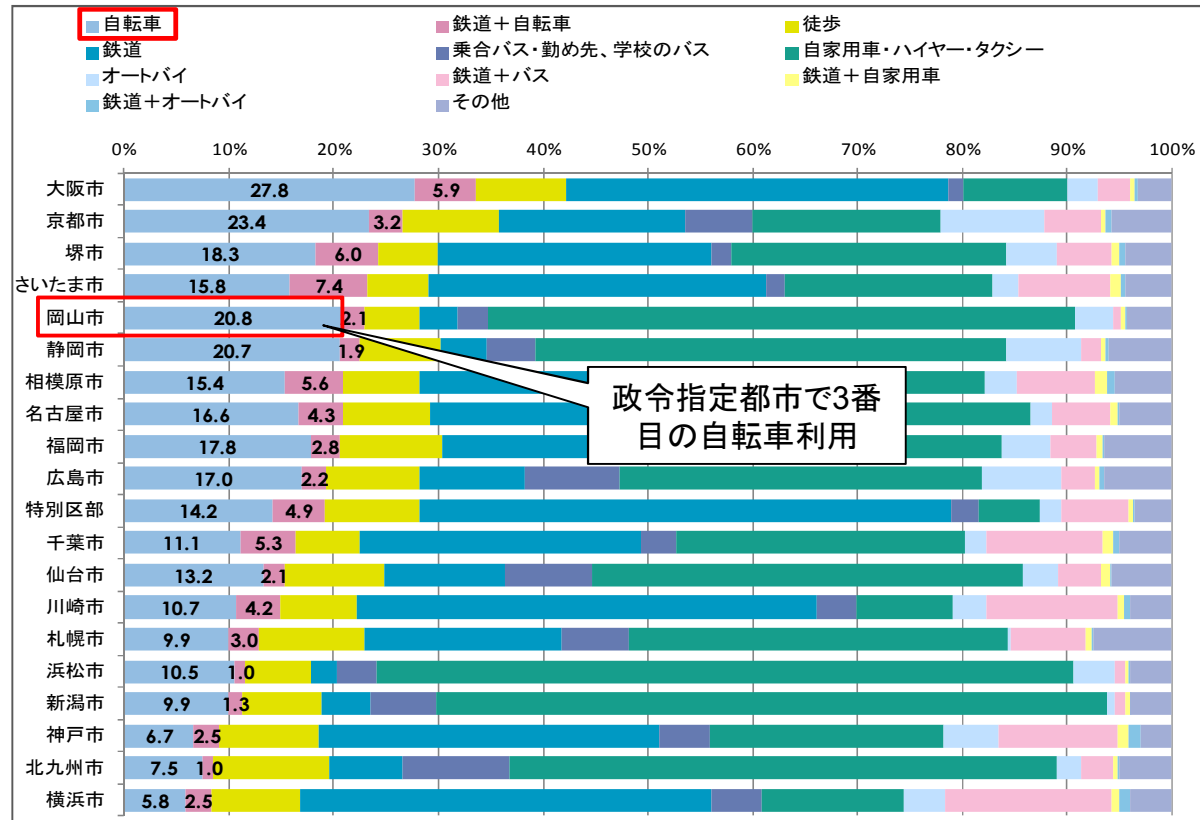
資料: 各バス会社時刻表

岡山市の自転車利用環境等に関する満足度

- 岡山市の通勤通学時の交通手段で、自転車の分担率は20.8%で、政令指定都市で3番目。
- 高い自転車利用の一方で、自転車利用環境等に対する満足度は低い。

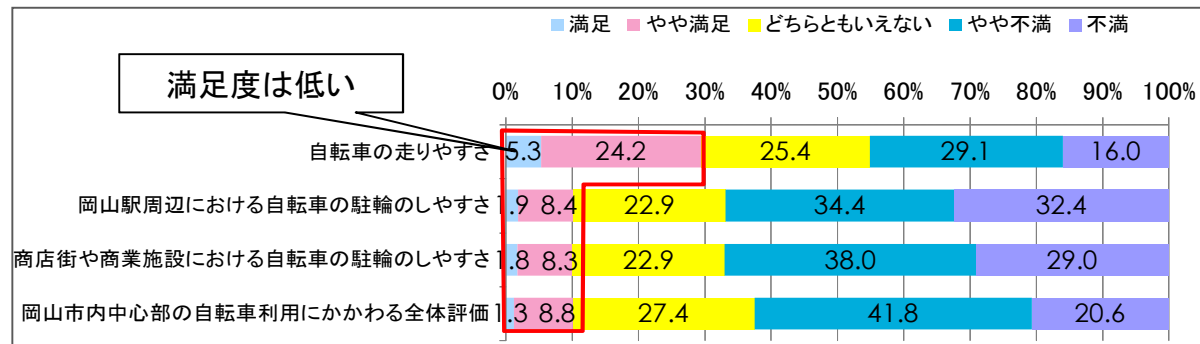
通勤通学時の交通手段 (政令指定都市集計)

資料:平成22年国勢調査



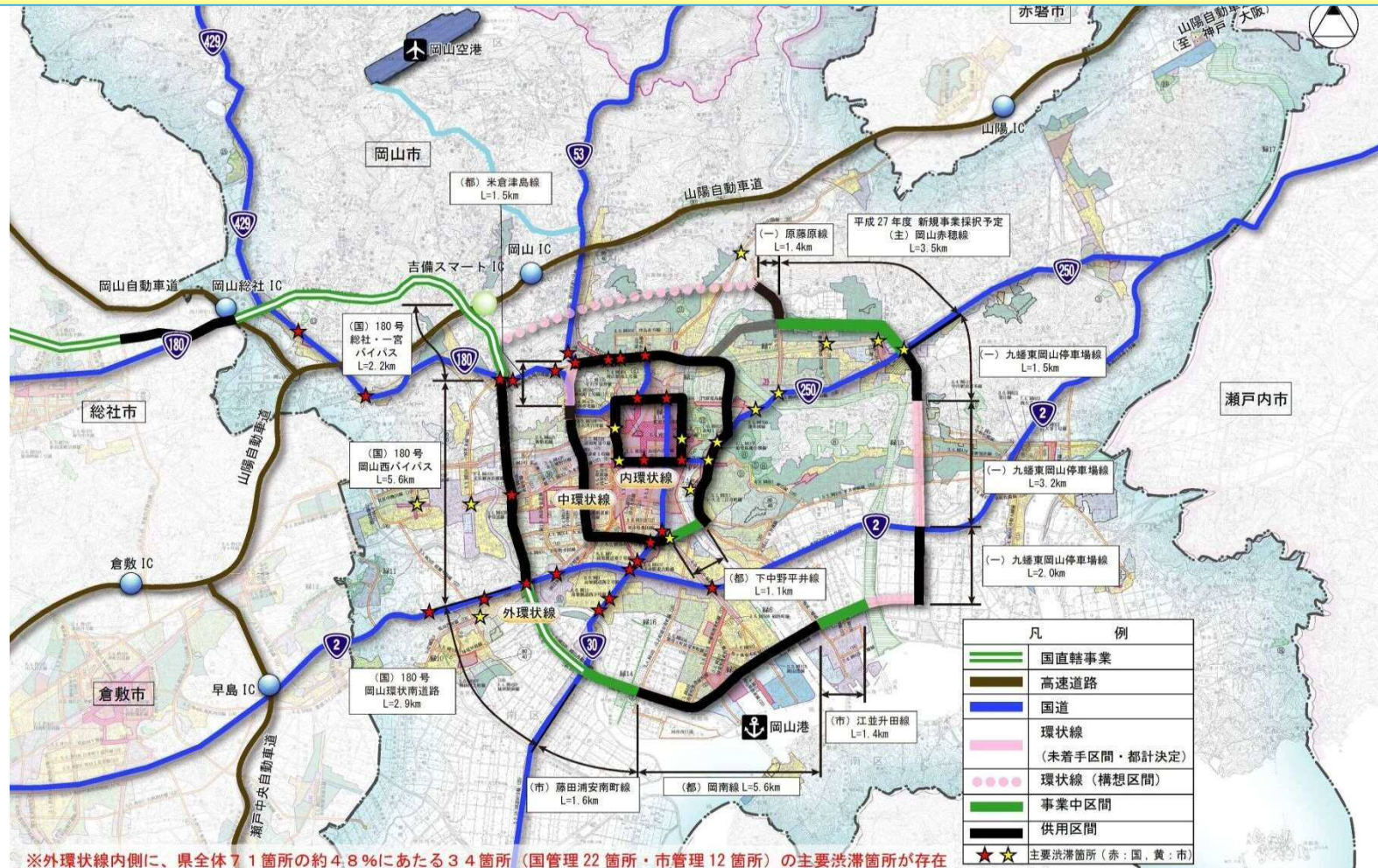
市内の自転車利用環境等 に対する満足度

資料:岡山市民アンケート調査
(H23.11月~H24.1月交通政策課実施)



岡山環状道路の整備状況

- 内環状線:延長 6.7km 整備率100%
- 中環状線:延長16.6km 整備率 90%(暫定供用含む)
 - ・事業中区間:(市施行)下中野平井線 約1.0km ・事業着手準備区間:米倉津島線 約0.6km
- 外環状線:延長38.4km 整備率 42%(暫定供用含む)
 - ・事業中区間:(国直轄)国道180号総社一宮バイパス 約1.2km、岡山環状南道路 約2.9km
(市施行)市道藤田浦安南町線 約1.6km、市道江並升田線 約1.4km、主要地方道岡山赤穂線 約3.5km
- * 外環状線は地域高規格道路に指定

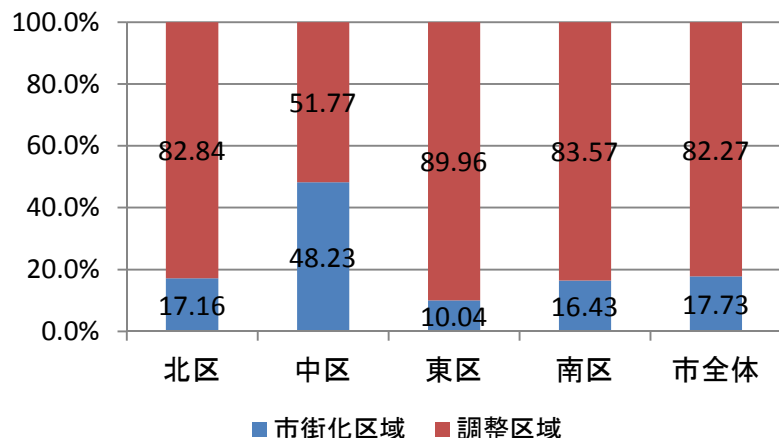


※外環状線内側に、県全体71箇所の約4.8%にあたる34箇所(国管理22箇所・市管理12箇所)の主要渋滞箇所が存在

区別 公園、道路、下水道

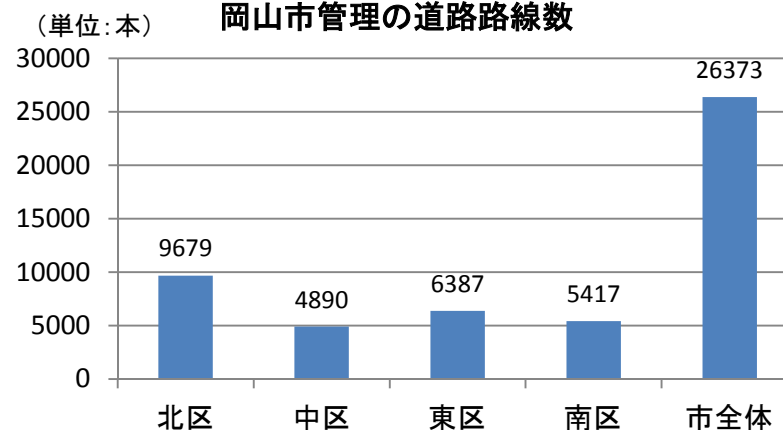
- 市街化区域面積の占める割合が一番高いのは中区で、区域の約半分を占める。
- 区民1人当たりの公園面積は東区が最も広く、北区、南区、中区と続く。
- 岡山市管理の道路路線数は、北区が最も多い。
- 下水道普及率は、南区が最も高く、東区が最も低い。

市街化区域と市街化調整区域の割合



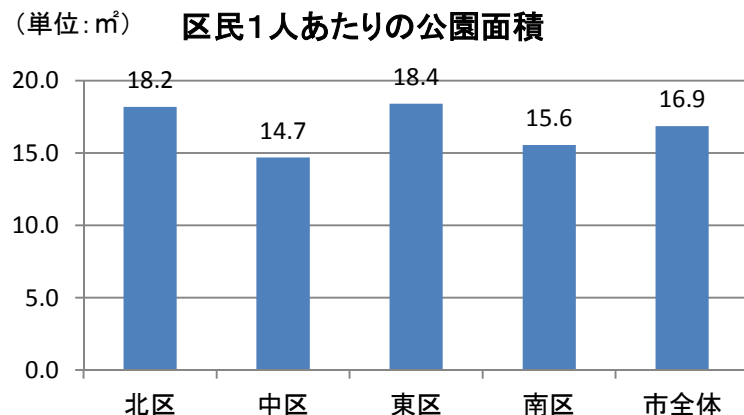
資料:「H24.3月末、岡山市調べ」

岡山市管理の道路路線数



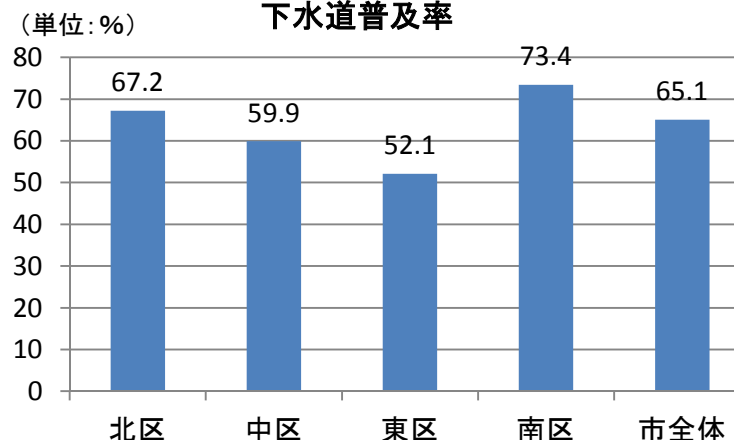
資料:「H27.4月、岡山市調べ」

区民1人あたりの公園面積



資料:「H27.3月末、岡山市調べ」

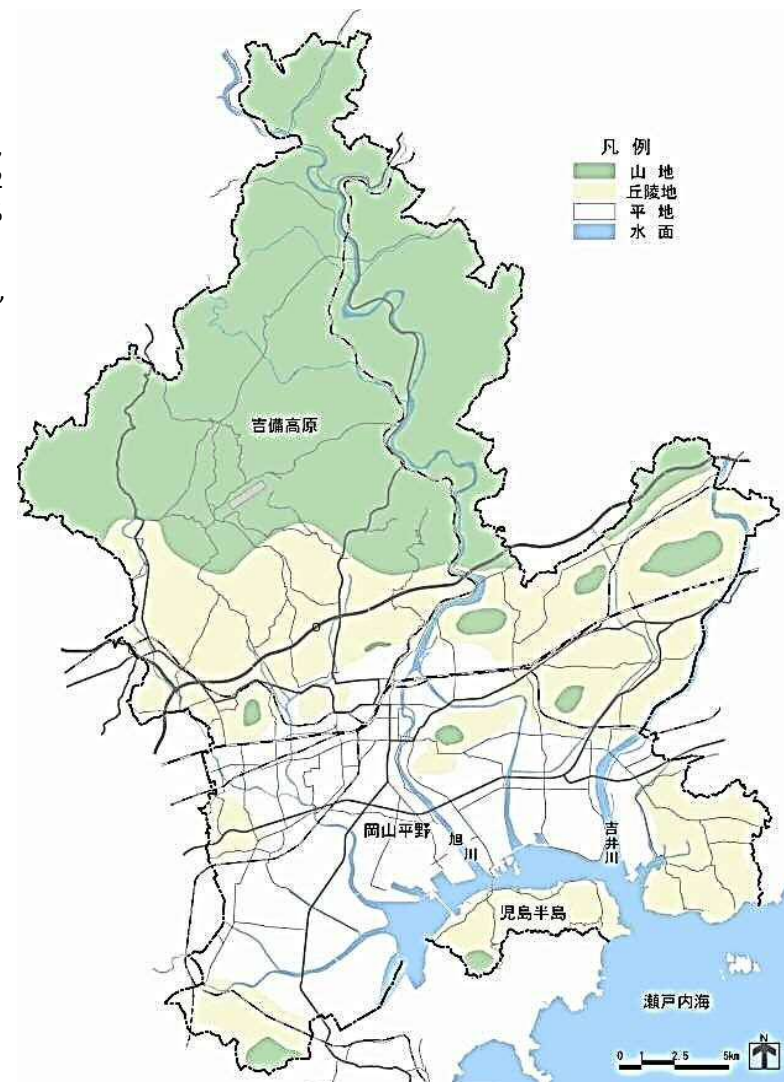
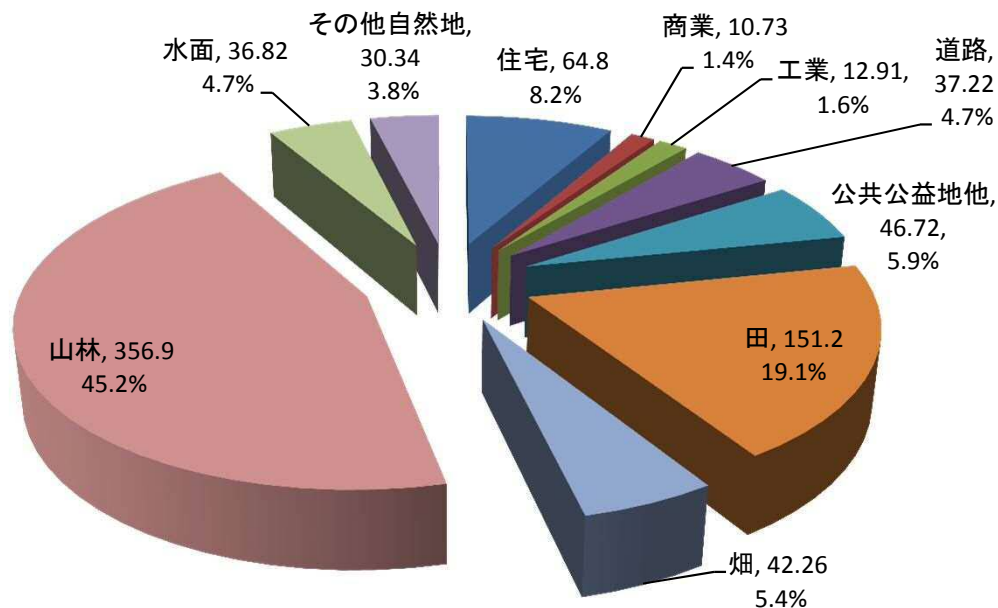
下水道普及率



資料:「H27.3月末、岡山市調べ」

- 全市域面積の約78%を山林や農地等の自然的土地利用が占める。
- 市域全体の約74%が都市計画区域に指定され、そのうち約13%が市街化区域。

市域全体の土地利用現況面積と割合(面積(km²)、割合(%))



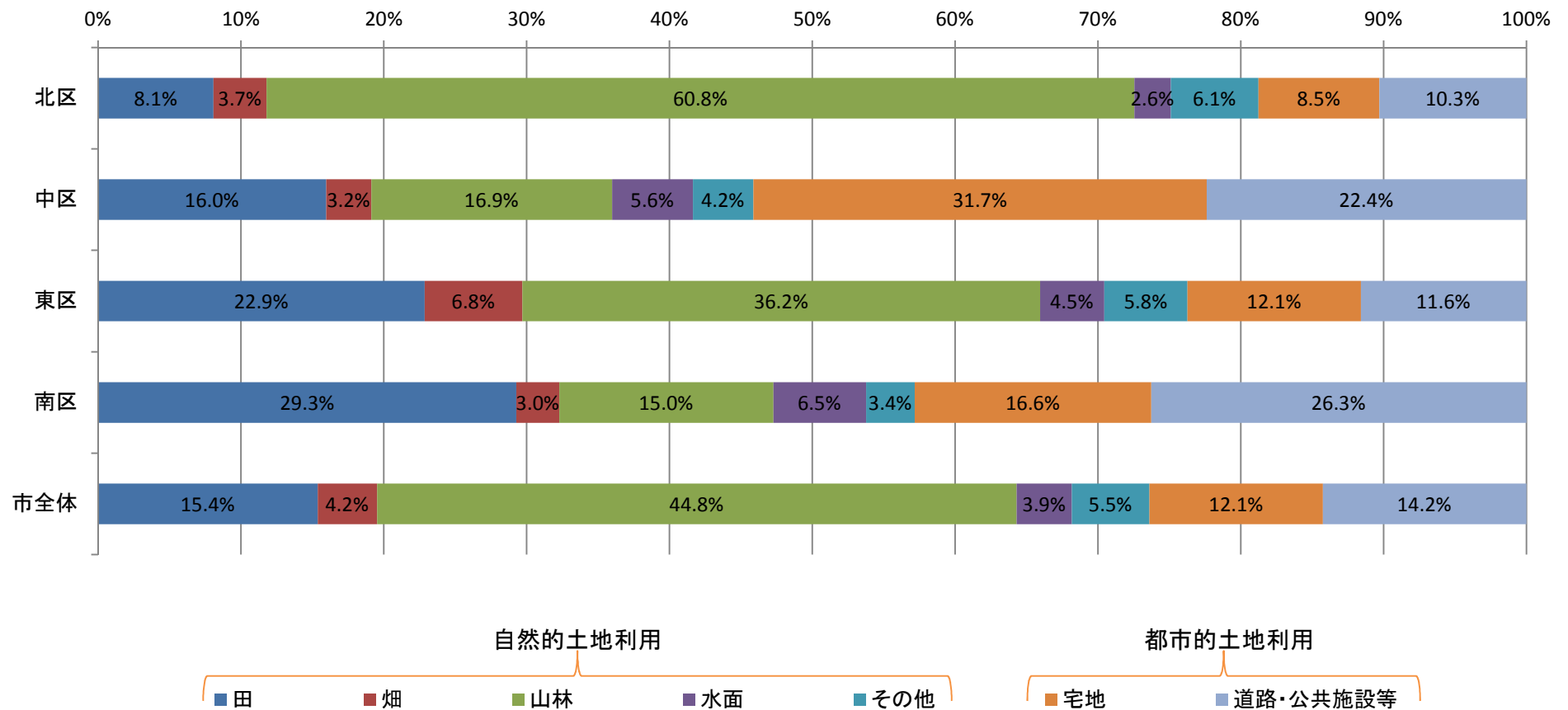
都市計画区域等の面積

	面積(km ²)	割合(%)	
都市計画区域	585.97	74.2	
都市計画区域内	市街化区域	103.88	13.2
	市街化調整区域	482.09	61
都市計画区域外	203.95	25.8	
市域全体	789.92	100.0	

資料: 都市計画おかやま資料集2010
 国土地理院HP 平成23年 全国都道府県市区町村別面積調

区別 土地利用

- 岡山市の約7割が自然的土地利用。山林が最も多く、次いで田。
- 北区は他の区に比べ、山林の占める割合が高く、自然的土地利用が8割を超える。
- 中区は他の区に比べ、宅地の占める割合が高く、都市的都市利用が5割を超える。
- 東区は他の区に比べ、田、畑の占める割合が高い。山林の占める割合も北区に次いで多い。
- 南区は他の区に比べ、田の占める割合が高い。また、道路・公共施設等が占める割合も高い。



区別 産業別就業者数

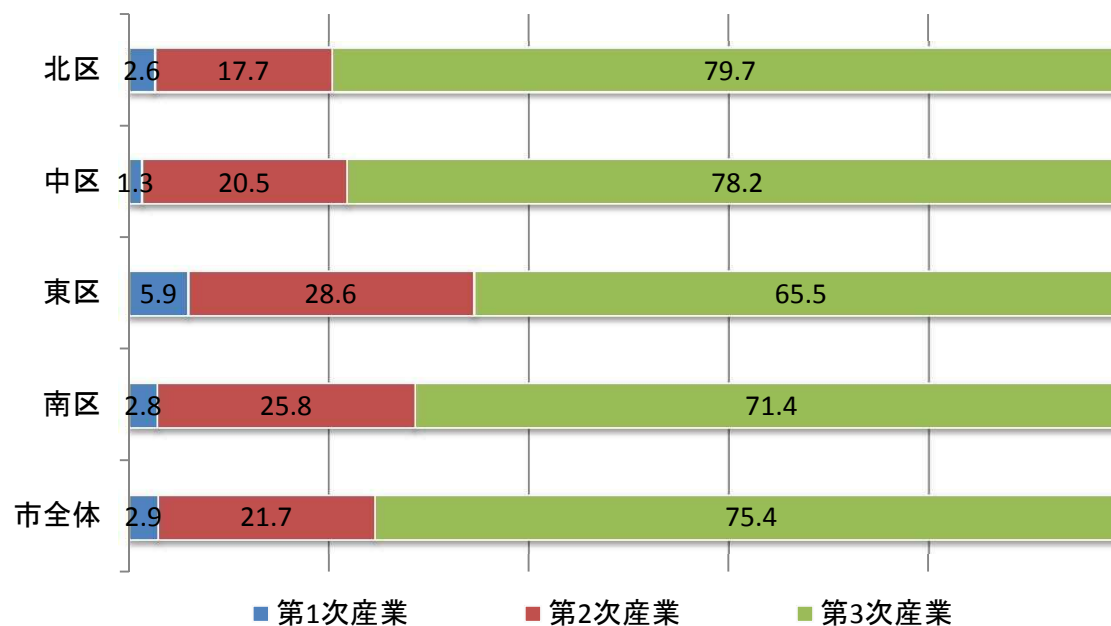
- 北区、中区は、市全体に比べ、第3次産業の就業者数が多い。
- 東区は、市全体に比べ、第1次、2次産業の就業者数が多い。
- 南区は、市全体に比べ、第2次産業の就業者数が多い。

各区の産業別就業者数(人)

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
北区	3,450	23,125	104,140
中区	813	12,511	47,794
東区	2,573	12,404	28,363
南区	2,089	19,602	54,242
市全体	8,925	67,642	234,539

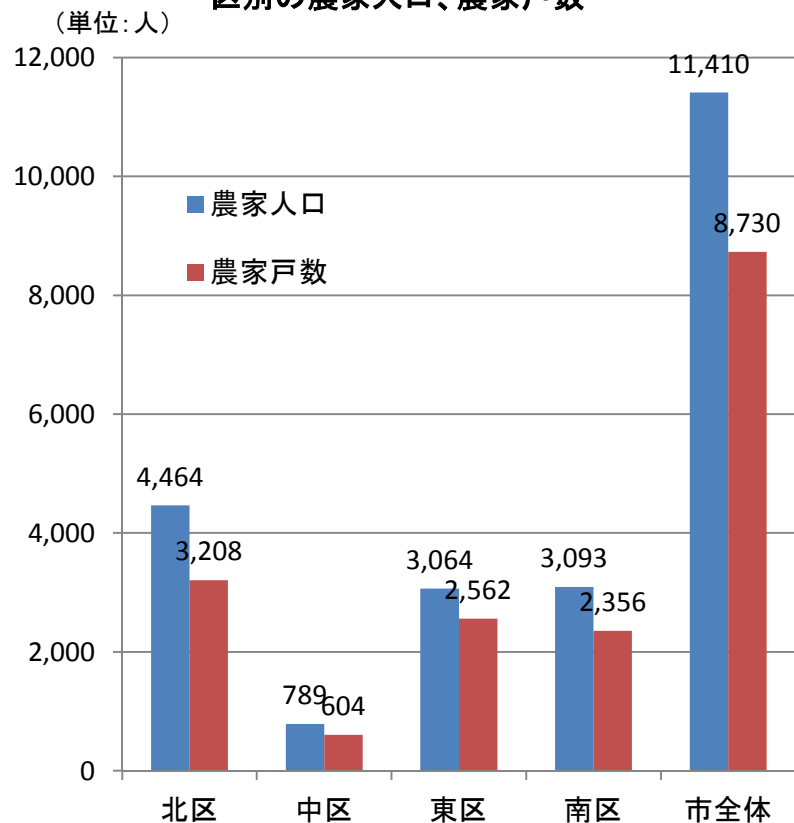
※常住地による産業別の従業者数

各区の産業別就業者の割合(%)

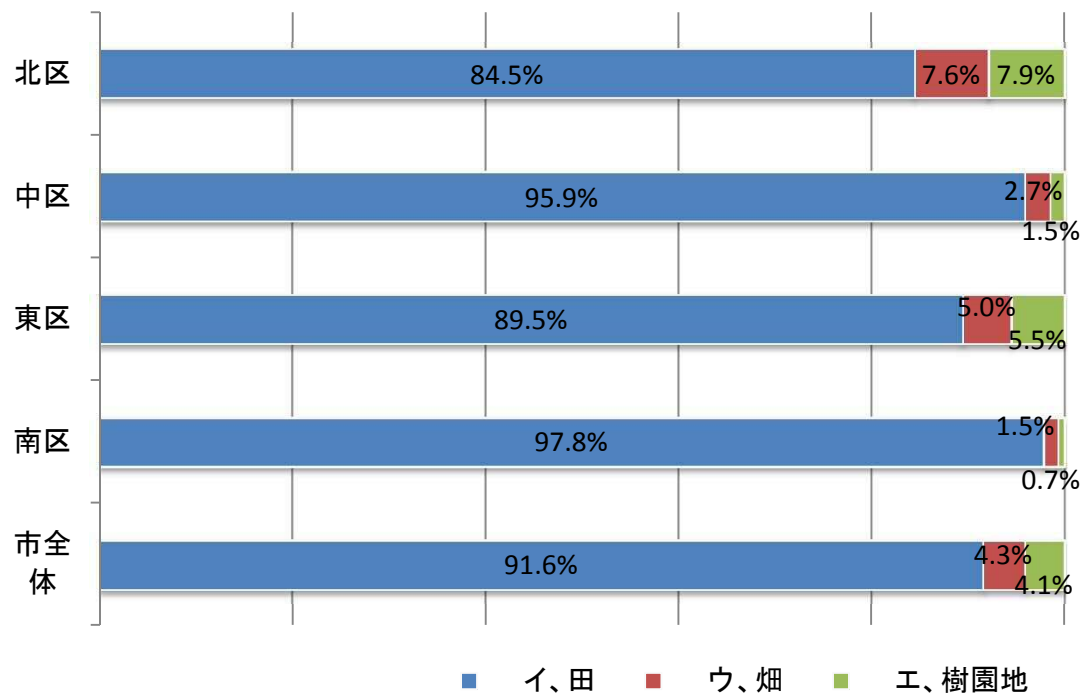


○農家人口、農家戸数ともに、北区が最も多く、中区が最も少ない。
 ○経営耕地面積の内訳をみると、中区、南区では田の割合が95%を超えている。それに対し、北区、東区では、畑、樹園地それぞれの割合が5%を超えている。

区別の農家人口、農家戸数



区別の経営耕地面積の内訳



(単位:ha)

	北区	中区	東区	南区	市全体
田	2,300	648	2,784	3,585	9,317
畑	208	18	156	56	438
樹園地	215	10	172	24	421
計	2,723	676	3,112	3,665	10,176

岡山市の農業の特徴(全国有数の農業都市)



- 岡山市の総農家戸数は12,691戸で、全国の市町村の中で3位(平成22年)である。
- 岡山市の販売農家の経営耕地面積(田のみ)は9,317haで、全国の市町村の中で14位(平成22年)である。
- 岡山市の作付面積は水稲が中心で、麦類、果樹、野菜がこれに続く。

農家戸数(総農家)の市町村別順位(単位:戸)

順位	市町村名	戸数
1	静岡県浜松市	13,855
2	長野県長野市	13,496
3	岡山県岡山市	12,691
4	新潟県新潟市	12,690
5	岩手県奥州市	11,582
6	岩手県一関市	11,305
7	香川県高松市	9,941
8	宮城県登米市	9,177
9	兵庫県姫路市	9,158
10	秋田県横手市	8,920

経営耕地面積(販売農家・田のみ)の市町村別順位(単位:ha)

順位	市町村名	面積
1	新潟県新潟市	25,374
2	北海道岩見沢市	15,212
3	秋田県大仙市	13,768
4	岩手県奥州市	13,506
5	宮城県栗原市	13,214
6	山形県鶴岡市	12,857
7	宮城県大崎市	12,645
8	宮城県登米市	12,356
9	秋田県横手市	12,110
10	新潟県長岡市	11,784
⋮	⋮	⋮
14	岡山県岡山市	9,317

資料:2010年農林業センサス

岡山市主要農作物の作付面積(単位:ha)

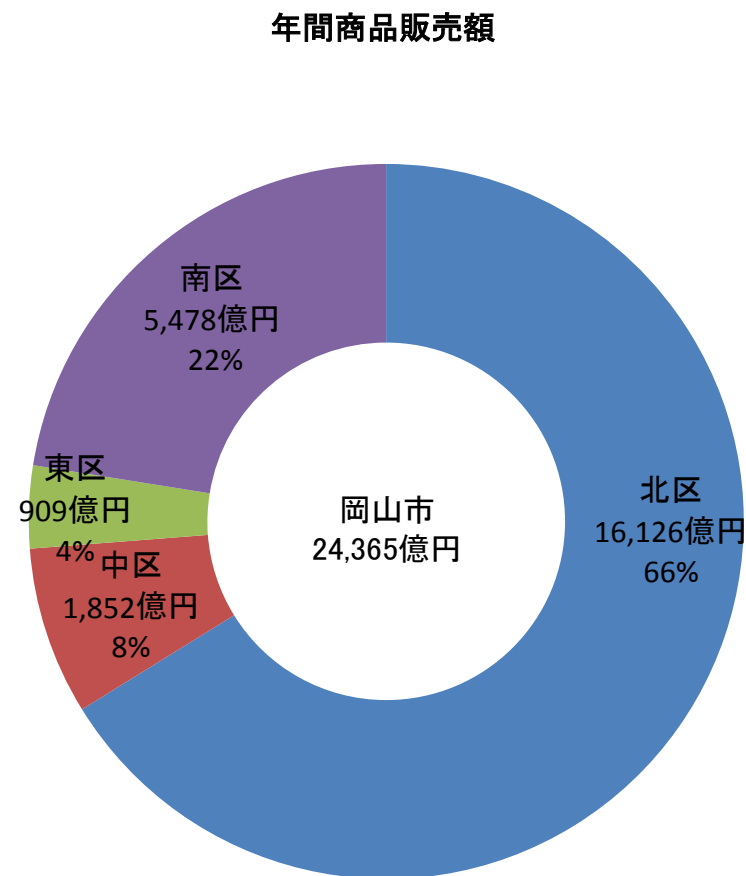
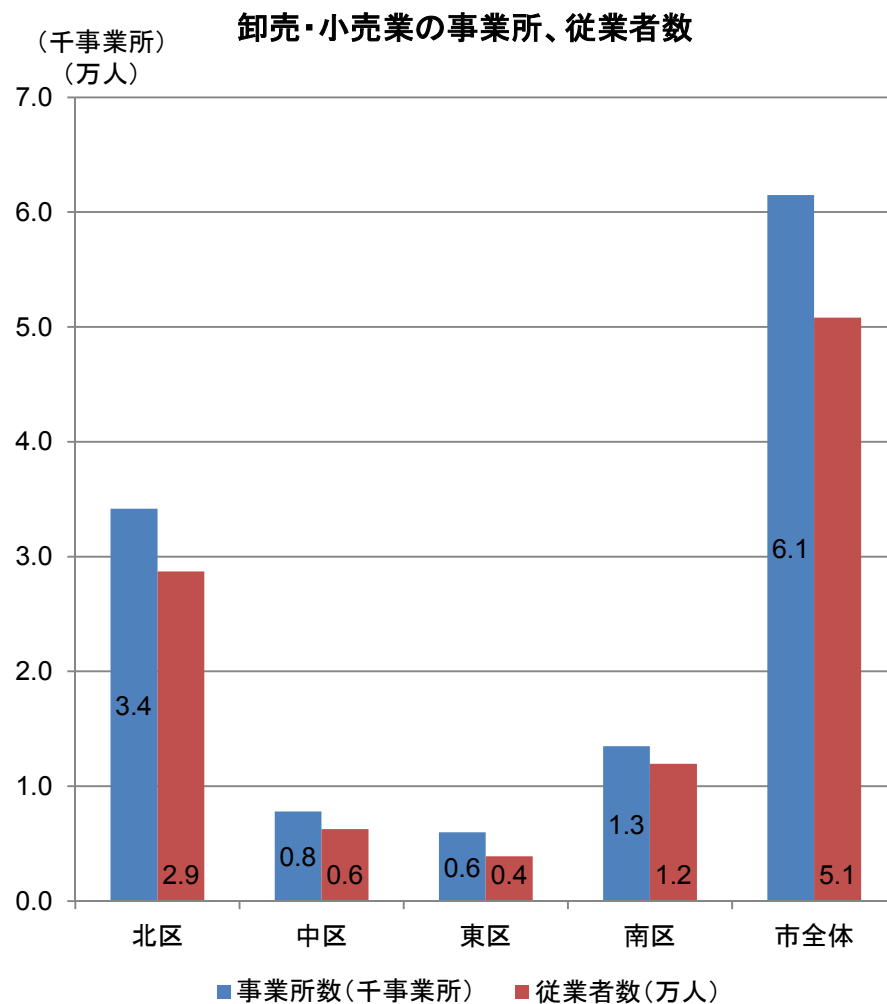
作物名	作付面積	
水稲	8,530	
麦類	1,813	小麦 392
		二条大麦 1,410
		裸麦 11
果樹	446	ぶどう 315
		もも 131
野菜	289	だいこん 14
		にんじん 11
		れんこん 29
		やまのいも 4
		はくさい 15
		キャベツ 33
		ほうれんそう 20
		レタス 35
		ねぎ 51
		たまねぎ 25
		きゅうり 2
かぼちゃ 15		
なす 32		
トマト 1		
メロン 2		
大豆	164	

資料:岡山農林水産統計年報(野菜・果樹はJA岡山、JA岡山東調べ)

※水稲はH25、他はH24の値

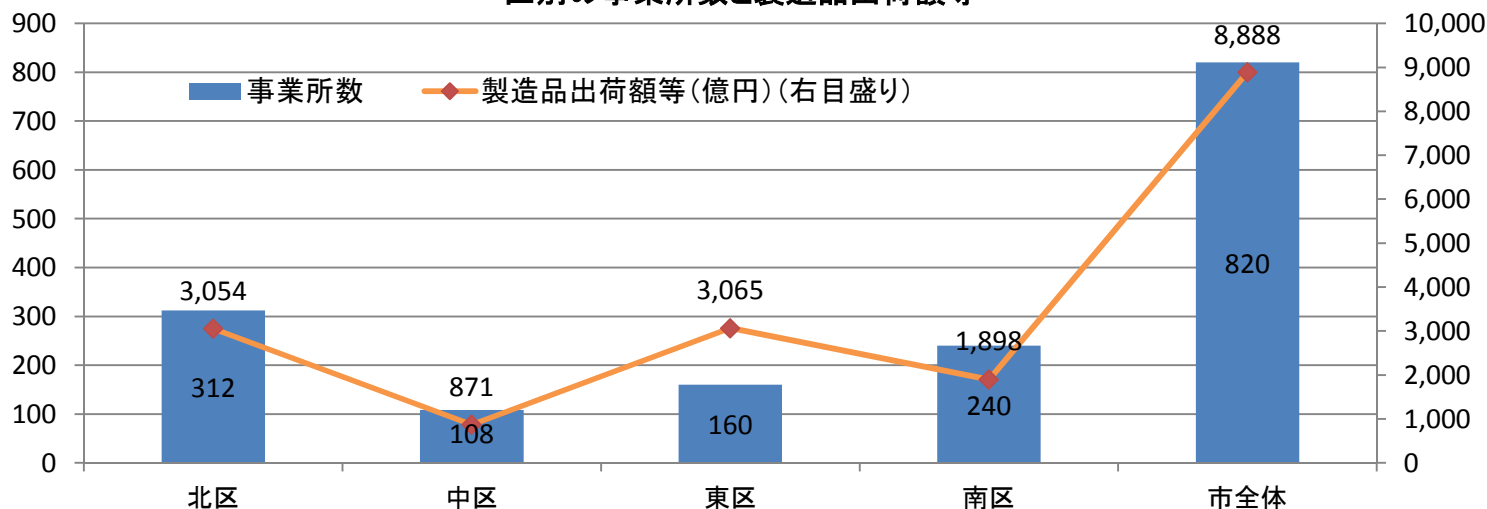
- ※「農家」とは、経営耕地面積が10アール以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が15万円以上の世帯をいう。
- ※「販売農家」とは、経営耕地面積が30アール以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。
- ※「経営耕地」とは、調査期日現在で農林業経営体が経営している耕地をいい、自作地と借入耕地の合計をいう。

- 卸売、小売業の事業所、従業者数ともに北区が最も多く、南区、中区、東区と続く。
- 年間商品販売額も、北区が最も多く、岡山市全体の7割弱を占める。

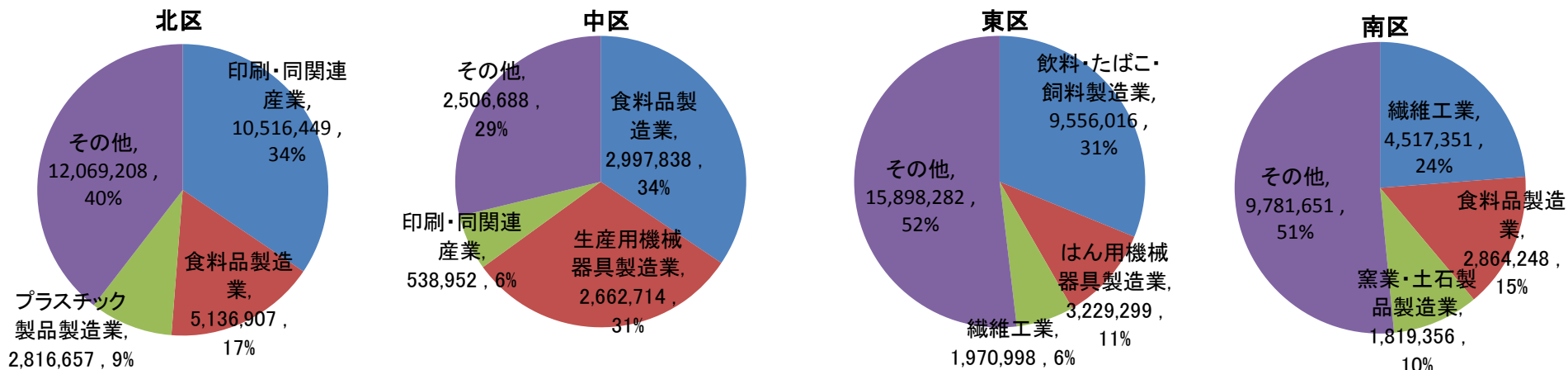


- 事業所数は北区が最も多く、南区、東区、中区と続く。
- 製造品出荷額等は、事業所数が3番目の東区が、北区を超えて最も多い。
- 各区の製造品出荷額等の内訳をみると、北区は印刷・同関連産業、中区は食料品製造業、東区は飲料・たばこ・飼料製造業、南区は繊維工業が最も多い。

区別の事業所数と製造品出荷額等



区別製造品出荷額等の内訳

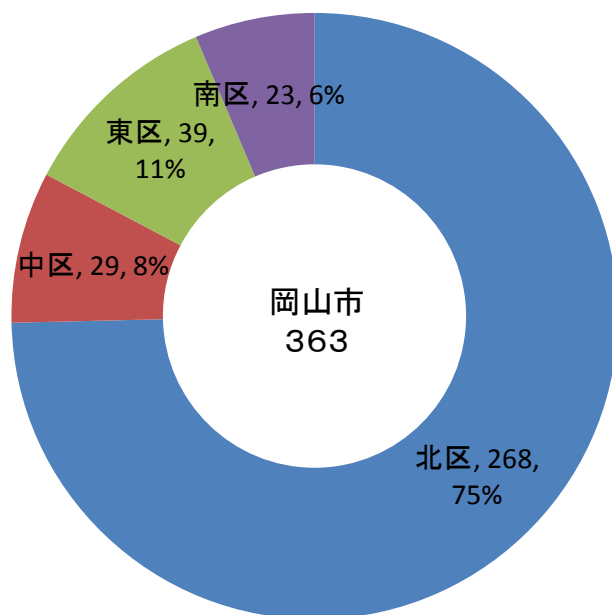


資料:「平成25年工業統計調査」

区別 文化財数

- 文化財数は、北区が最も多く、全体の7割を占める。
- 文化財のうち国指定史跡数は指定都市の中で、京都市に次いで2番目に多い。

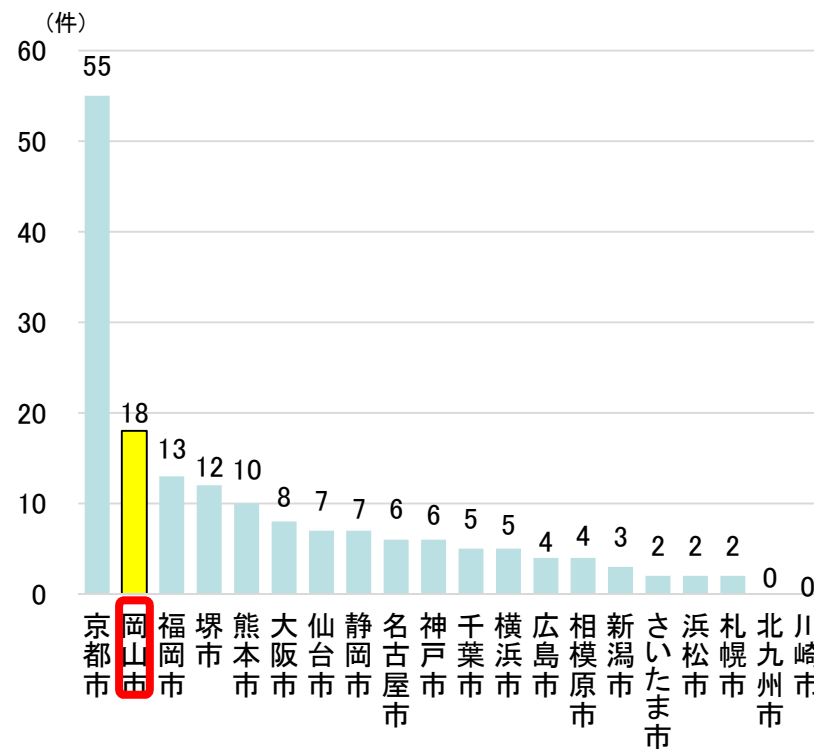
区別の文化財数



(岡山市全体の数には、地域指定なし4件を含む)

資料:岡山市教育委員会(H25.6月)

(参考)指定都市別 国指定史跡数

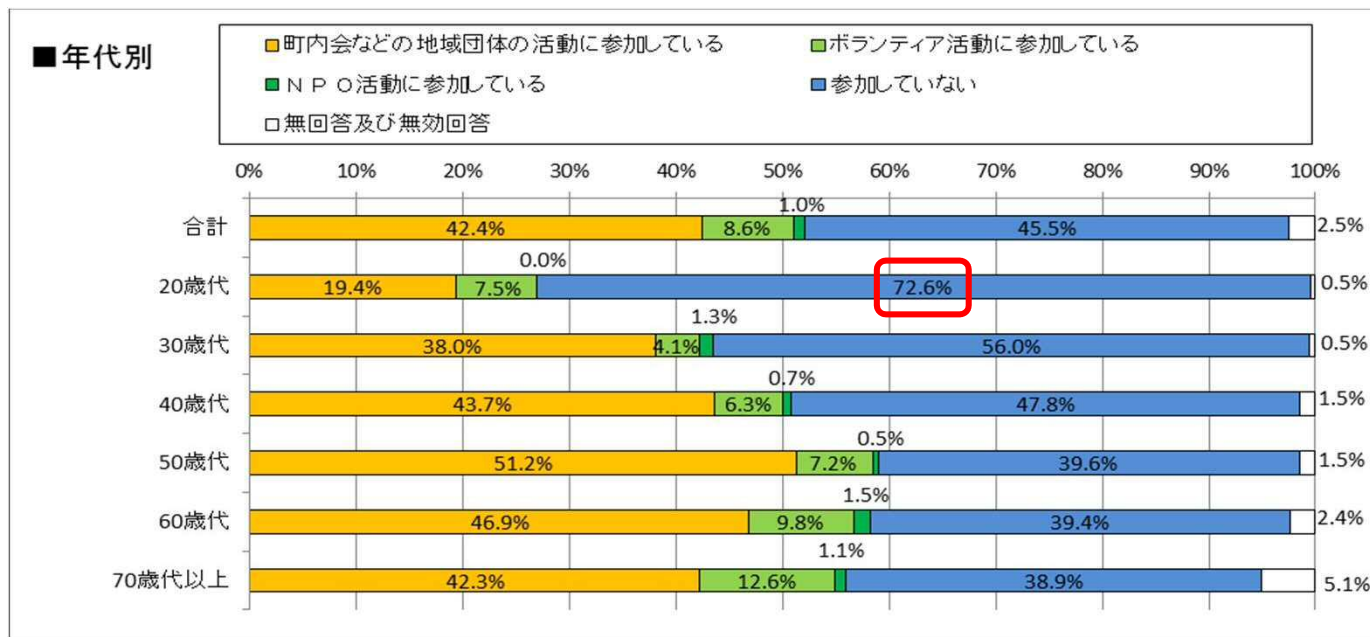
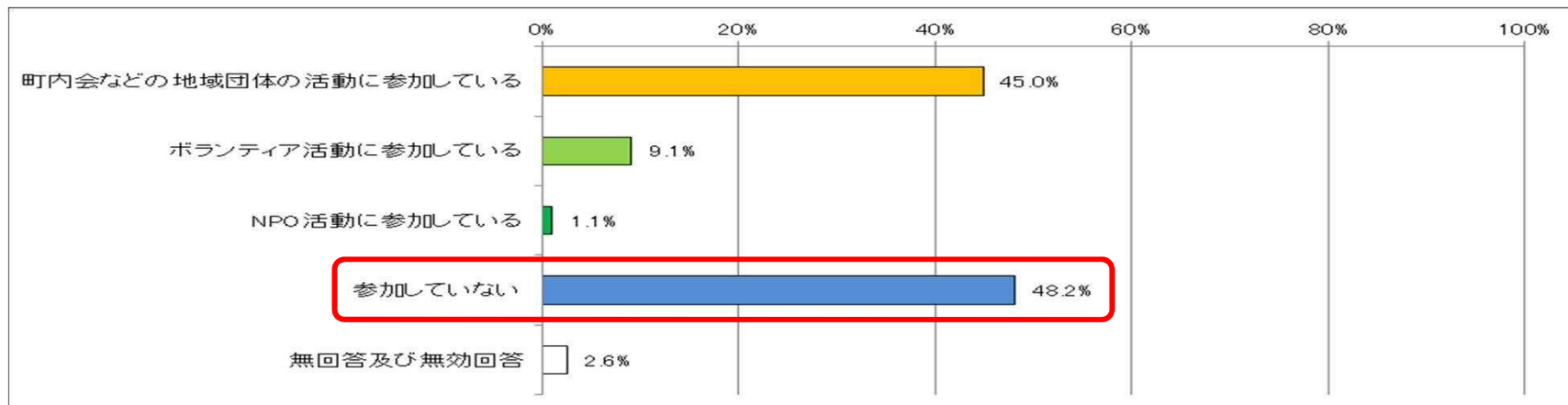


資料:岡山市教育委員会事務局(H25.3.31現在)

市民の地域活動への参加状況(市民意識調査)

- 平成25年度岡山市市民意識調査によると、全体の48.2%の人は、地域活動に参加していない。
- 地域活動に参加していない人の割合が最も高いのは20歳代で72.6%にのぼる。

【問】あなたは地域活動に参加していますか。(複数回答)



第15回
平成25年度岡山市市民意識調査
N=2,525

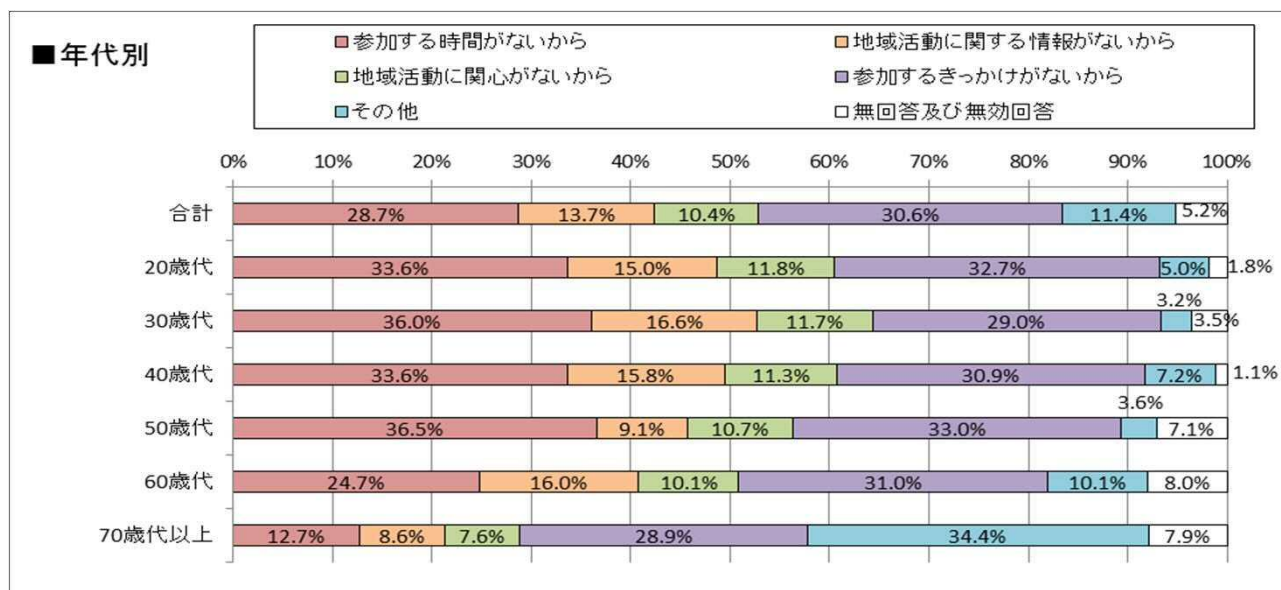
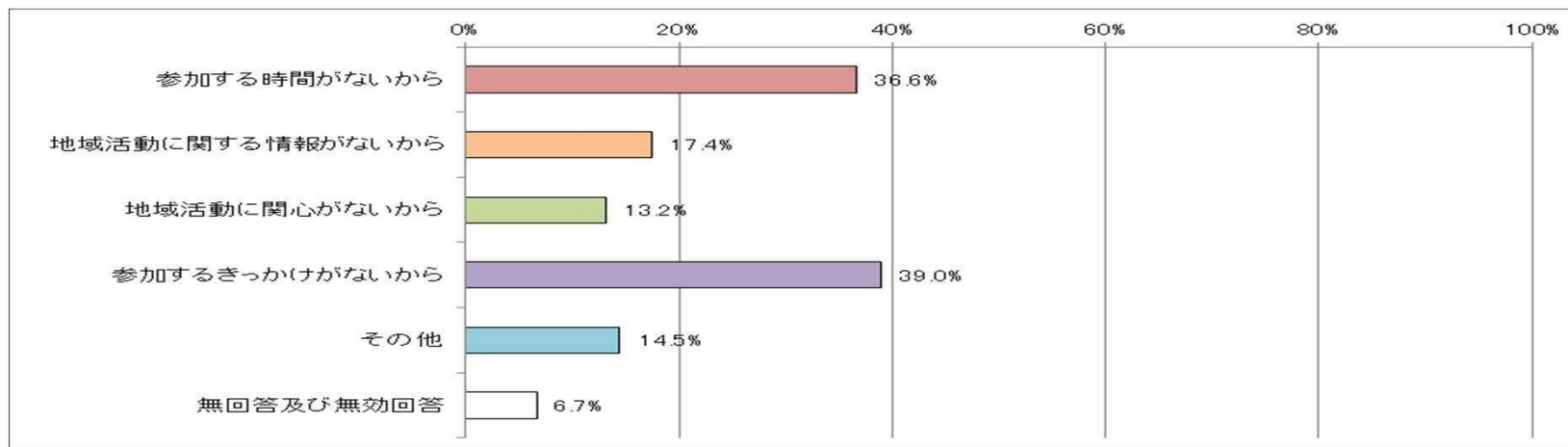
調査日：平成25年8月22日
～9月20日
調査対象：住民台帳から無作為抽出した20歳代以上の5,000人
回収：2,525人(回収率20.5%)

市民が地域活動に参加していない理由（市民意識調査）

○平成25年度岡山市市民意識調査によると、「参加するきっかけがないから」が39.0%と最も多く、「参加する時間がないから」が36.6%と2番目に多い。

○20代から50代までは「参加する時間がないから」が60代以上の年代に比べ高い。

【問】地域活動に参加していない理由はなんですか。（複数回答）



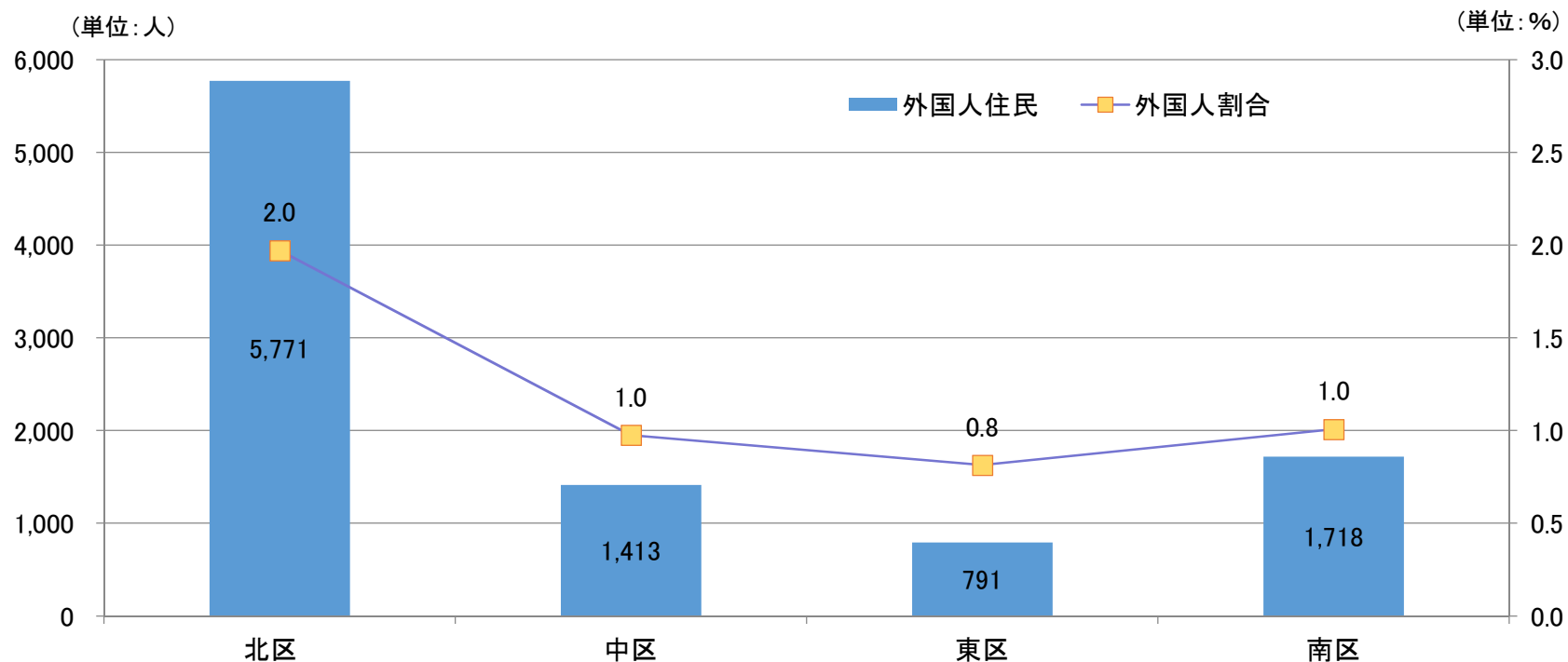
第15回
平成25年度岡山市市民意識調査
N=1,216

調査日：平成25年8月22日～9月20日
調査対象：住民台帳から無作為抽出した
20歳代以上の5,000人
回収：2,525人（回収率20.5%）

注）年代別の表は、全体を100とした
場合の割合

区別 外国人

- 外国人人口は、北区が最も多く、南区、中区、東区の順となっている
- 外国人割合についても北区が最も高く、中区と南区がほぼ同水準、次いで東区となっている

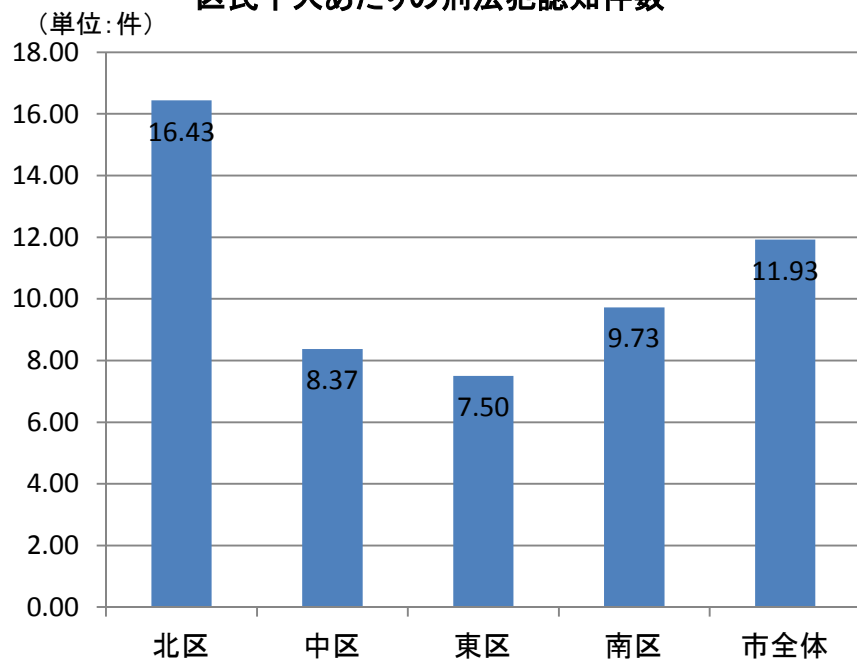


資料: 住民基本台帳人口(外国人)、平成26年10月現在

区別 安全・安心(刑法犯、交通事故)

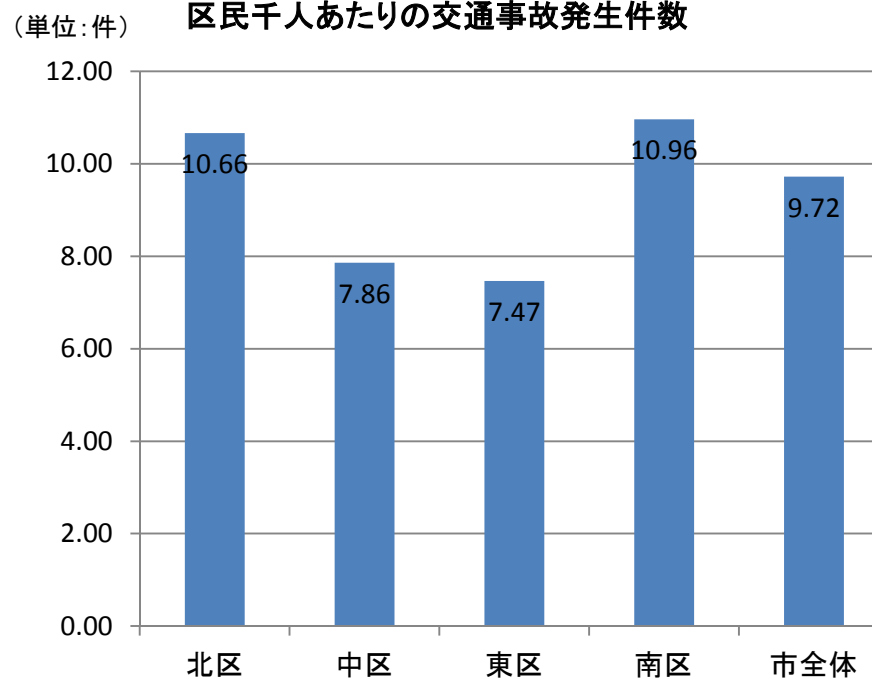
- 区民千人あたりの刑法犯認知件数は、北区が最も多く、南区、中区、東区と続く。
- 区民千人あたりの交通事故発生件数は、南区が最も多く、北区、中区、東区と続く。
- 東区は、刑法犯認知件数、交通事故発生件数ともに最も少ない。

区民千人あたりの刑法犯認知件数



資料:「H26年、岡山県警調べ」

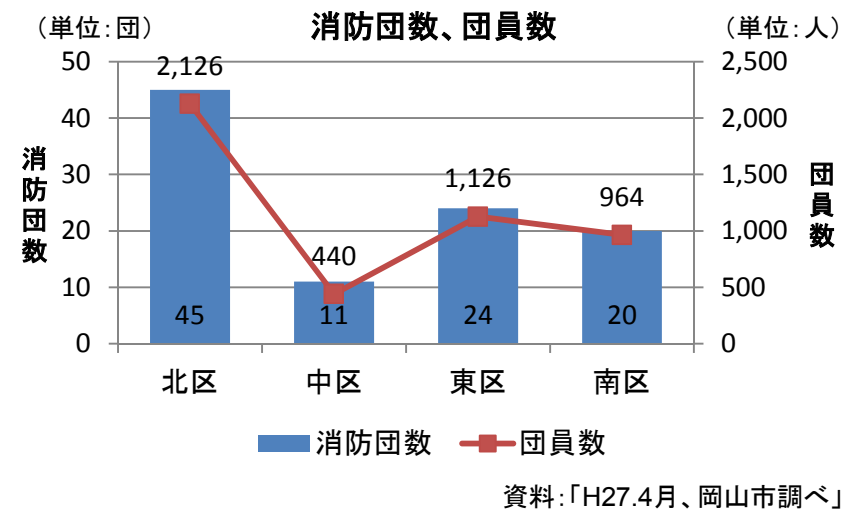
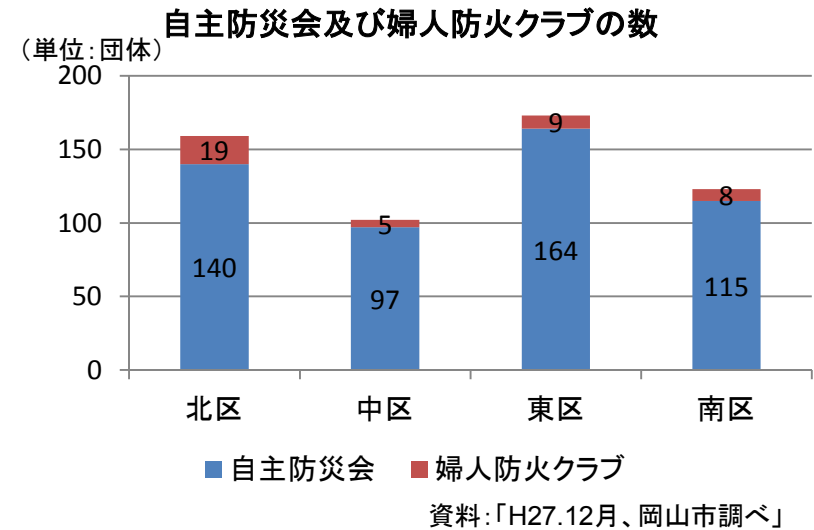
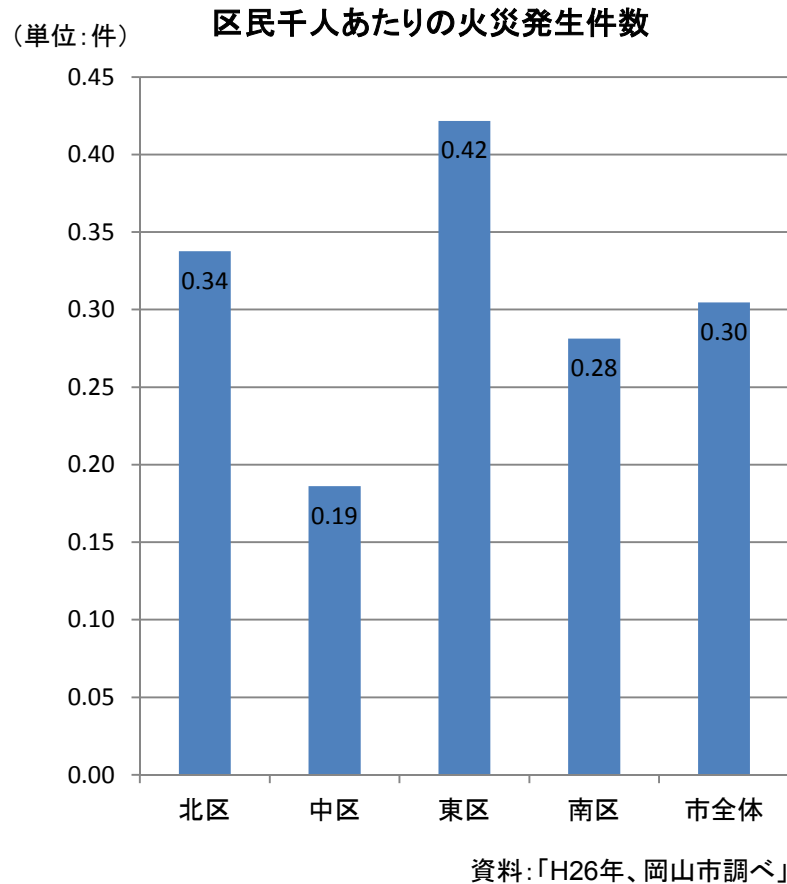
区民千人あたりの交通事故発生件数



資料:「H26年岡山県警調べ」

区別 安全・安心(火災、自主防災、消防団)

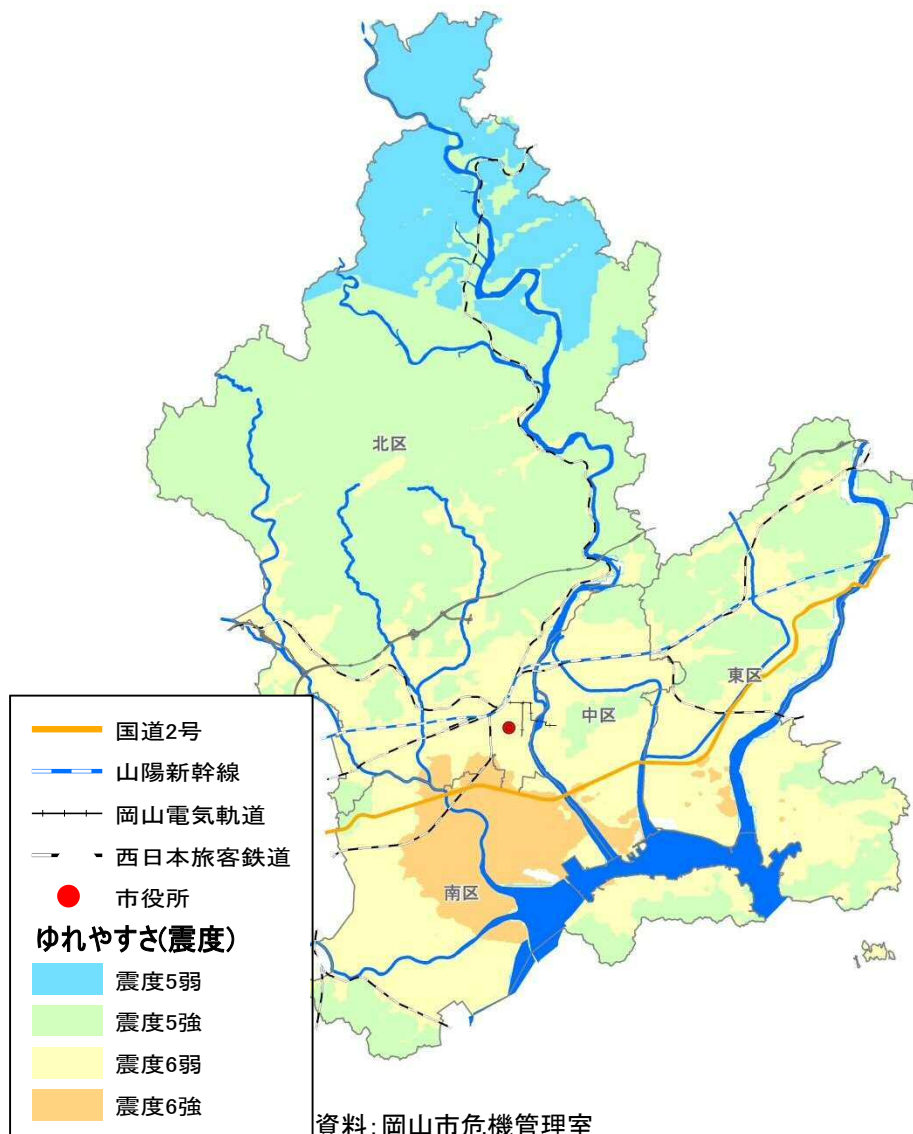
- 区民千人あたりの火災発生件数は、東区が最も多く、北区、南区、中区と続く。
- 自主防災会及び婦人防火クラブの数は東区が最も多く、北区、南区、中区と続く。
- 消防団、消防団員数は北区が最も多く、東区、南区、中区と続く。



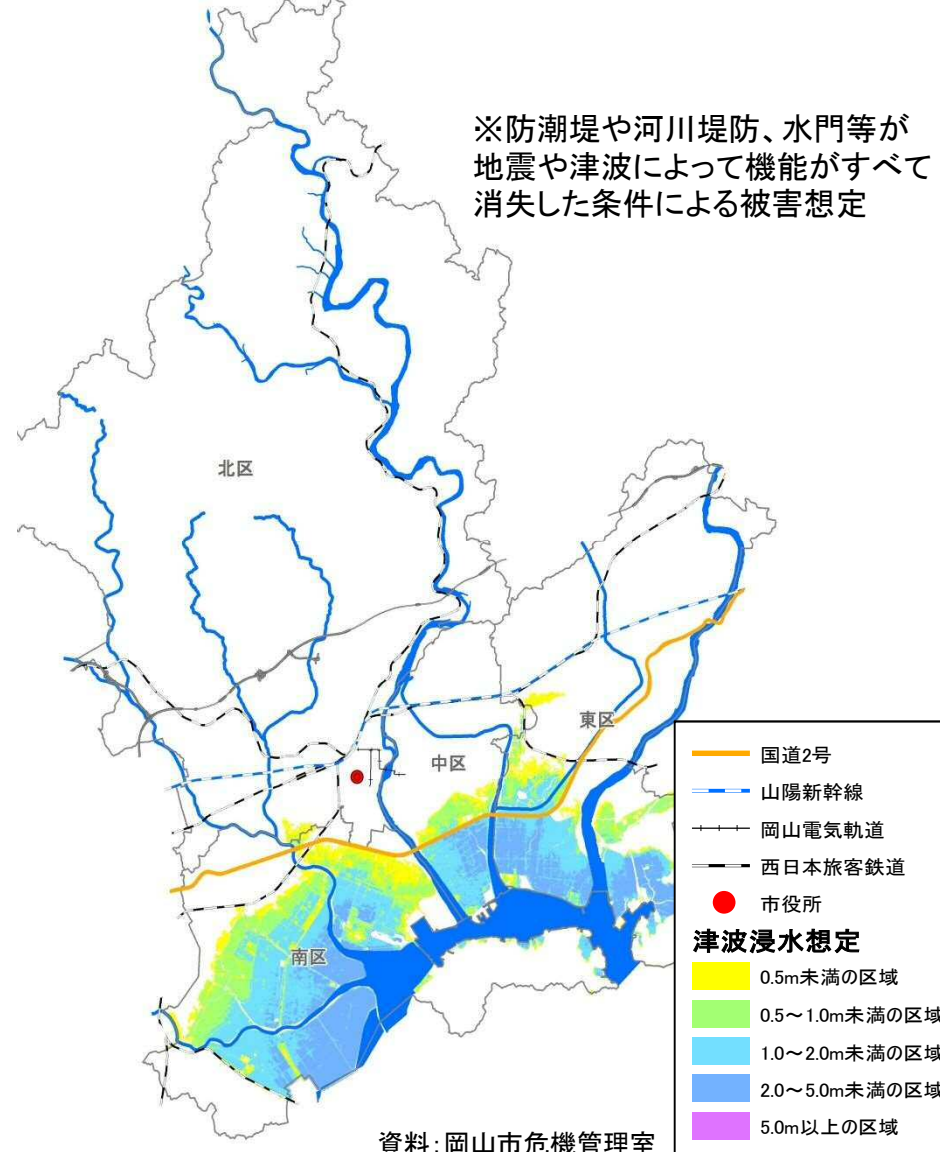
南海トラフ巨大地震による岡山市の被害想定

○地震は最大震度6強を、津波は南区小串で最大2.6m(海拔高)を想定している。

【震度分布図】



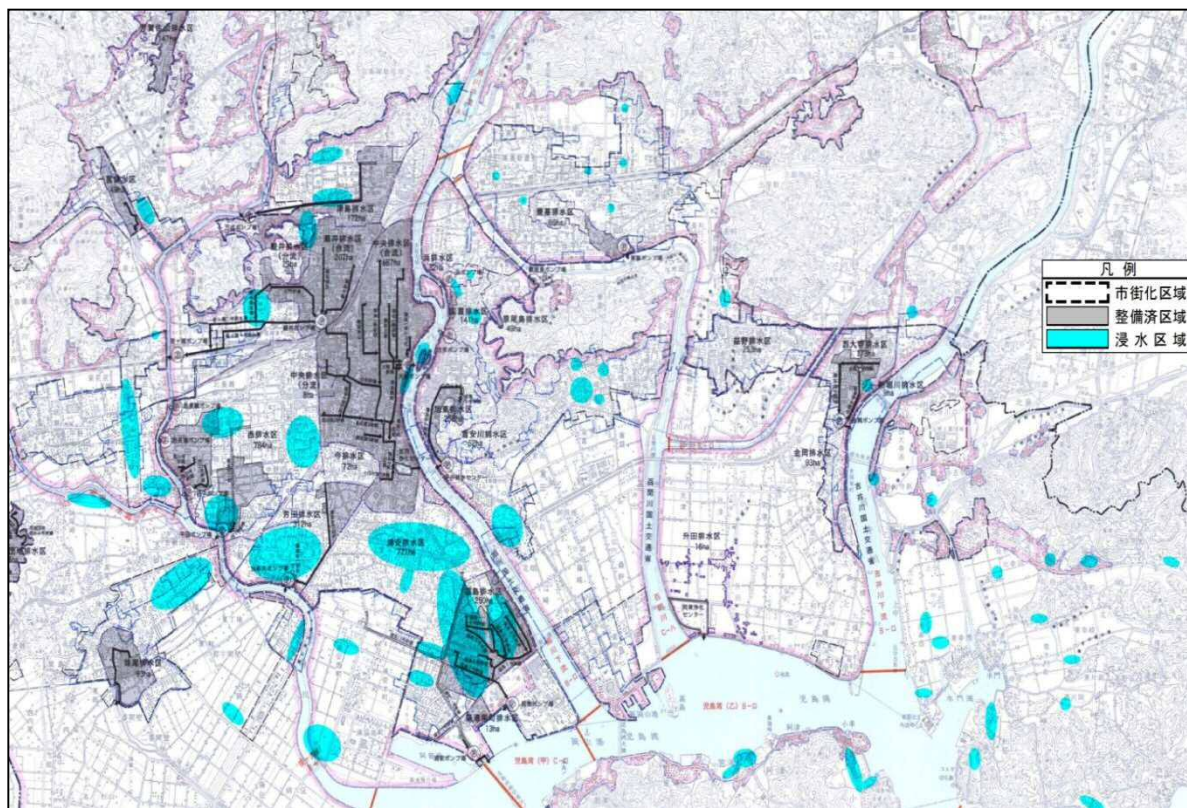
【津波分布図】



岡山市の浸水被害の状況

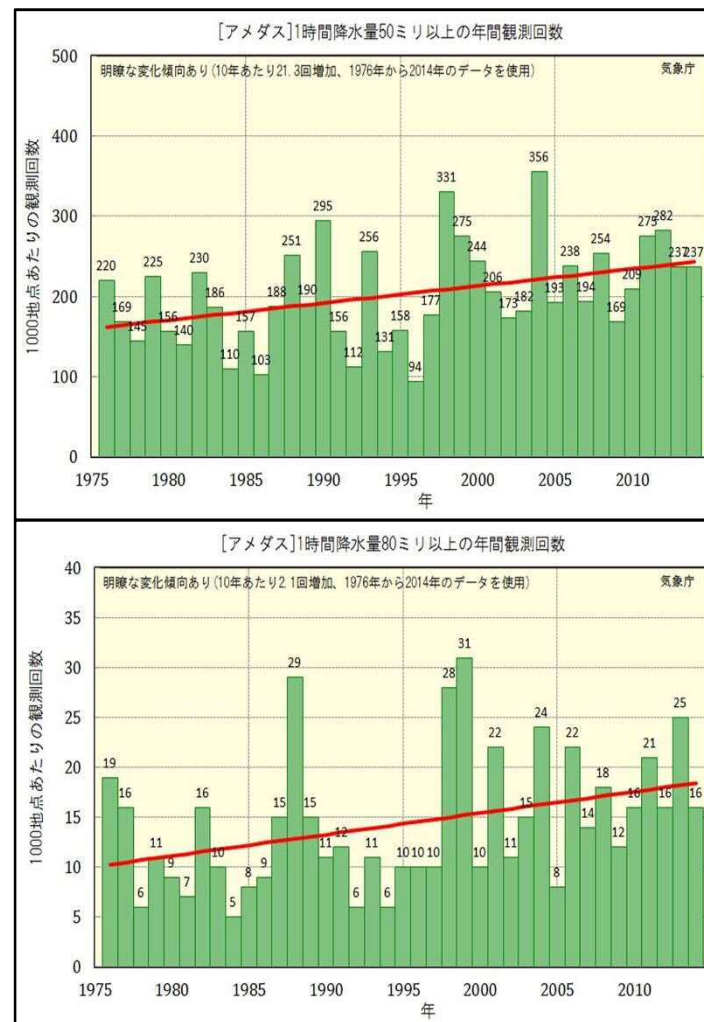
○平成23年の台風12号では、過去最大級の降雨により床下浸水4,445世帯、床上浸水135世帯の大きな浸水被害が発生した。
 ○近年、台風が大規模化するとともに、全国的に短期間集中豪雨が増加している。

平成23年の台風12号による浸水発生地区



資料:岡山市

短期間集中豪雨発生回数(全国)



資料:気象庁ホームページより

〇市域の変遷

- ・明治22年の市制施行以来、13回にわたる周辺市町村との合併
- ・特に昭和44年の西大寺市との合併、46年の9町村（一宮町、津高町、高松町、吉備町、妹尾町、福田村、上道町、興除村、足守町）との合併、50年5月の藤田村との合併によって飛躍的に広がる
- ・さらに平成17年3月には御津町、灘崎町と、平成19年1月には建部町、瀬戸町と合併し、現在の市域面積は789.92平方キロメートル、旧備前国、備中国、美作国3カ国にまたがる広大な市域となった

（平成21年4月に全国で18番目の指定都市に移行。北区、中区、東区、南区の4区を設置）

岡山市の市域変遷図

